



令和2年度版

あおもりの 野菜っこ



**あおもりの野菜は、
豊かな自然と
きまじめな生産者が育てた
安全・安心な野菜です。**



発行：青森県農林水産部農産園芸課
TEL：017-734-9481
E-mail：noen@pref.aomori.lg.jp

青森県では、夏季冷涼な気候、緑豊かな森林、三方を囲む海など、恵まれた地域特性を生かし、未来につながる「水」「土」「人」の3つの基礎づくりを進めながら、「農林水産業の収益力強化」「共助・共存の農山漁村づくり」を推進し、農林水産業の持続的成長と共生社会の実現を目指しています。

そんな中で生産されるあおもりの野菜は、自然豊かな環境のもとで、生産者が「こだわり」と「正直にまじめに」育てた自信をもっておすすめできる「健康野菜」です。



目次

青森県の主要野菜

ながいも	・・・	2	ピーマン	・・・	26
にんにく	・・・	4	いちご	・・・	28
ごぼう	・・・	6	えだまめ	・・・	30
だいこん	・・・	8	さやいんげん	・・・	32
にんじん	・・・	10	ねぎ	・・・	34
ばれいしょ	・・・	12	キャベツ	・・・	36
こかぶ	・・・	14	レタス	・・・	38
トマト	・・・	16	ほうれんそう	・・・	40
ミニトマト	・・・	18	ブロッコリー	・・・	42
メロン	・・・	20	スイートコーン	・・・	44
すいか	・・・	22	アスパラガス	・・・	46
きゅうり	・・・	24			

青森の伝統的・特徴的野菜	・・・	48
青森県産野菜の生産と流通	・・・	50
付表	・・・	53
日本一健康な土づくり推進運動	・・・	58
旬のカレンダー	・・・	60

ながいも



作付面積日本一、出荷量全国2位
青森県産野菜のエース!!

青森県のがいもは、作付面積が日本一、出荷量が全国2位で、国内出荷量の約4割を占めています。

品種は、在来種「ガンクミジカ」に由来する首が短く肉付きの良い系統や品種が普及しており、色白で粘りが強くアクが少ないのが特徴で、品質が良いながいもとして全国の市場から高い評価を得ています。

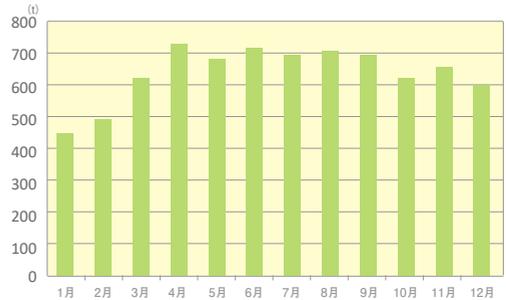
5月に植え付けが始まり、11月から12月（秋掘り）と越冬後の3月から4月（春掘り）の年2回収穫されます。

各産地には、低温貯蔵庫が整備され、年間を通じて全国に出荷されているほか、近年はアメリカにも輸出されています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	63,200	2,060
2	青森	50,700	2,250
3	長野	5,010	285
4	岩手	2,980	187
5	茨城	2,240	113
	全国	128,400	5,310

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	露地普通	越冬		春掘り収穫	植付け		栽培管理 (ネット張り、除草、追肥、病害虫防除など)				秋収穫	貯蔵
出荷時期 (旬の時期)	[Red shaded area indicating shipping periods from January to December]											

主な産地

- 三八地域：八戸市、五戸町、階上町、新郷村、三戸町、南部町、田子町
 西北地域：五所川原市、つがる市
 上北地域：十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町



産地レポート

J A ゆうき青森野菜振興会ながいも生産部会

◆産地の情報

J A ゆうき青森の野菜振興会ながいも生産部会は会員数が488名、作付面積が444haで県内一の生産量を誇っており、エコファーマー認証システム（J A独自の認証制度）に基づく徹底した土づくりによるおいしくて安全ながいもづくりが自慢の産地です。



全国でもトップクラスの規模を誇るながいも洗浄選別・貯蔵施設があり、東北町と六ヶ所村の施設を合わせて1日最大48tのながいもを処理できる安定した出荷体制の確立により、首都圏を中心とした周年出荷が行われています。



◆品質・収量向上と消費者交流に積極的な取組

品質の良いながいもを多く生産する基本はなんと言っても優良な種苗を使うことです。J Aでは種苗増殖ほを設置し、厳正な栽培管理やウイルス病のチェックを経た優良な種苗の増殖と生産者への供給が行われています。

また、消費宣伝活動として「おいしいながいも決定戦」を実施しており、「第13回おいしいながいも決定戦」は東北町立東北小学校で行われ、3、4年生がながいもを食べ比べ、1番おいしいと感じたながいもに投票し、順位を決定しました。

にんにく



国産の7割を占める日本一の産地！
大きさ、雪のような白さ、品質の良さが自慢！

青森県のにんにくは、日本一の生産量を誇り、国内出荷量の約7割を占めています。栽培品種は、本県の気候に適した「福地ホワイト」が使用されており、その栽培は昭和37年から田子町で本格的に始まり、その後、水田転換政策により昭和40年代後半から全県に拡大しました。

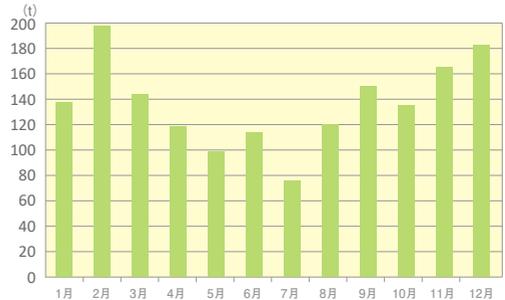
福地ホワイトは、大玉の6片種で、県外産に比べ、1片が大きく、実がよく締まり、雪のように白いことから、市場等で高い評価を得ています。

6月から7月に収穫されたにんにくは、乾燥後に冷蔵庫で保管され、1年を通じて安定して出荷されています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	10,400	1,440
2	香川	663	102
3	北海道	626	136
4	鹿児島	270	47
5	宮崎	245	55
	全国	15,000	2,510

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

中南地域：平川市、藤崎町
 三八地域：八戸市、五戸町、階上町、新郷村、三戸町、
 南部町、田子町
 西北地域：板柳町、つがる市
 上北地域：十和田市、三沢市、七戸町、六戸町、
 東北町、六ヶ所村、おいらせ町



産地レポート

J A 十和田おいらせ野菜振興会にんにく専門部会

◆産地の情報

J Aでの主な産地は、野菜づくりが盛んな十和田市を中心とした上北地域です。管内の作付面積は265ha、出荷数量は1,467tで、日本一の生産量を誇っています。

にんにくは、9月中旬から10月中旬に種（りん片）を植え付け、翌年6月下旬から7月上旬に収穫します。極寒の中でじっくり育つため、辛みが少なく甘みのある味わいとなっています。

にんにく部会長の戸館さんは、J A 十和田おいらせのにんにくを日本一のブランドにするため、部会活動を強化していると話していました。



◆土へのこだわり「TOM-VEGEにんにく」

J Aでは、土壌のミネラル成分等を測定、調整し、糖度、硝酸値の独自基準に適合したものを「十和田おいらせミネラル野菜（TOM - VEGE（トムベジ）」ブランドとしています。「健康で美味しい野菜づくりの基本は、健康な土づくりにある」という姿勢で生産者一丸となって、消費者に喜ばれる野菜づくりに励んでいます。

また、食の安全・安心が求められる中、トレーサビリティの徹底に努め、残留農薬検査も実施しています。



にんにく関連商品

◆販売への取組

出荷先は、7から8割が関東方面で、その他大阪、名古屋、九州となっています。多方面から引き合いが強く、市場出荷のほか、契約販売やインターネット販売等を取り入れた新たな販売方法にも力を入れています。

また、高付加価値化を目指し、低臭化したプレミアムにんにくを使って商品開発にも取り組み、これまでににんにくパウダーやにんにくドリンク等を製造、販売しています。特に、にんにくパウダーは平成26年度青森県特産品コンクールで最優秀賞を受賞しました。



部会長の戸館さん

ごぼう



生産量日本一！
健康志向の高まりでますます注目！

青森県のごぼうは、日本一の出荷量を誇り、国内出荷量の約4割を占めています。産地は、太平洋側の夏に「ヤマセ」とよばれる冷たい風が吹く上北地域に集中しており、同じ根菜類のながいもの輪作作物として、また、健康野菜として注目されていることなどから、近年、生産が拡大しています。

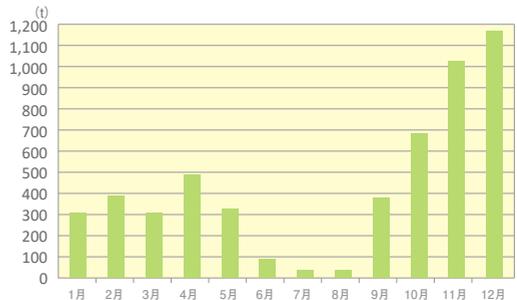
4月から6月に種をまき、9月から11月に収穫されたごぼうは冷蔵庫で保管され、ほぼ一年中、安定的に供給されています。

青森県のごぼうは、香りや風味が良く、繊維質が邪魔にならない程度に身が締まり、シャキシャキとした食感が特徴で、高品質なごぼうとして市場から評価を得ています。

全国の生産状況 (R1)

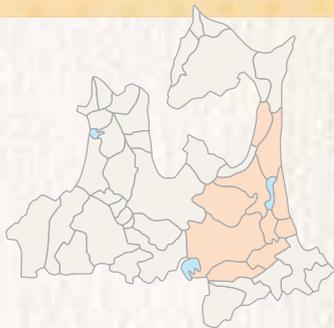
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	48,300	2,360
2	茨城	12,500	793
2	北海道	11,600	607
4	宮崎	9,700	604
5	群馬	6,840	410
	全国	119,400	7,540

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

三八地域：五戸町、新郷村
上北地域：十和田市、三沢市、七戸町、六戸町、
横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町



産地レポート

J A おいらせやさい推進委員会ごぼう部会

◆産地の情報

地域の主力品目であるながいもの輪作作物として導入されたごぼうは、収穫作業の機械化や長期安定出荷が可能となる貯蔵施設の整備により作付面積を維持し、令和元年度の販売額は10億円となっています。

部会では、平成23年からJ A版のG A P手法を取り入れながら、生産から出荷まで安全・安心の確保に努めています。

日本一の産地としての誇りと責任を胸に、食感と香りと風味が自慢のごぼうづくりに取り組んでいます。



収穫作業の様子



収穫直後のごぼう

◆加工品開発で地域を元気に

地元の企業や生産者グループを中心に、ごぼう茶など多くの加工品が作られ、農家の所得向上につながっています。また、地元高校生による「ごぼうアイス」の製造・販売が行われるなど、ごぼうは地域に強く結び付き、地域を元気にしています。

◆県産ごぼうを全国へ

「生産者は、生産・出荷で終わりではなく、食べ方も提案しなければ」「これからは専門家の意見を聞きながら、自分たちが生産するごぼうの食べ方を多くの人に知ってもらいたい」と語るのは、三沢地区の織笠光子さん。

ごぼうの消費拡大に向けて、全国規模のテレビ番組の取材を積極的に受け入れ、消費者との交流を広げてきました。

ごぼうには抗酸化作用のあるポリフェノールが含まれていますが、水にさらすことで失われるので、きんぴらごぼうの前処理の際には、スポンジで皮の土を洗い落とし、皮付きのままラップに包み電子レンジで加熱すると良いこと、新聞紙で包んで保存する方法などを教えて頂きました。



ごぼうを手に笑顔の織笠さん

だいこん



春から秋まで本県の気候と地形を生かして生産！出荷量は全国3位！

青森県のだいこんは、県内の野菜生産で最も作付面積と出荷量が多い野菜で、主な出荷時期は6月から11月です。

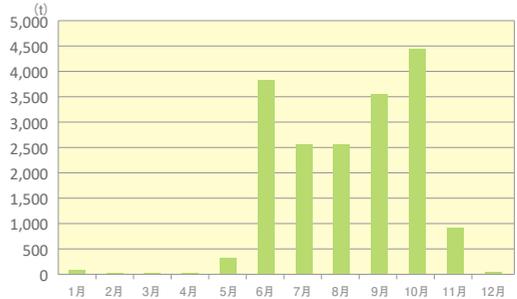
県内の主な産地は、上北地域（三沢市、東北町、六ヶ所村、おいらせ町）、中南地域（平川市、黒石市）、三八地域（五戸町、新郷村）、下北地域（むつ市、東通村）等で、県内各地で産地が形成されています。

作型は、春は強い低温による食用部分の生育停滞を防ぐトンネル栽培、夏は涼しい高冷地での栽培、秋は露地栽培など、栽培する時期や場所によって品種や作型を変えて品質の良いだいこん生産を行っています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	159,600	3,250
2	千葉	132,600	2,660
3	青森	110,800	2,970
4	鹿児島	85,400	2,060
5	神奈川	70,600	1,070
	全国	1,080,000	30,900

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

春だいこん：三沢市、東北町、六ヶ所村、おいらせ町
 夏だいこん：黒石市、平川市、五戸町、新郷村、三沢市、
 東北町、六ヶ所村、おいらせ町、
 むつ市、東通村
 秋冬だいこん：東北町、六ヶ所村、おいらせ町



産地レポート

南八甲田高原野菜生産組合・善光寺平地区
(JA津軽みらい)

◆産地の情報

南八甲田高原野菜生産組合・善光寺平地区は、南八甲田山系の南西に位置する標高約700mの高原で、だいこん、にんじん、こかぶなどを生産する産地です。

この地区では、7月から10月までだいこんの出荷が行われており、5地区ある組合の中で、30代、40代の生産者が多い活気のある産地です(組合全体のだいこん作付面積は36ha、生産者数27名)。

この地域の夏だいこんは指定産地となっており、東北、関東などの市場へ出荷されています。

◆高品質安定生産に向けた取組

若手農業者の奈良優さんは、高原特有の冷涼な気候を生かし、緑肥等を輪作体系に組み込み、病害虫の適期防除を行うことで高品質安定生産に取り組んでいます。

5月から7月まで7、8品種を組合せて3日毎に「は種」を行い、苗を間引いて生育を揃え、適期に収穫することを基本に、2L規格の長くて太くてずっしりと重い(1本1.5kg相当)均質なだいこんを継続的に出荷しています。

収穫作業は家族とパートの皆さんと手掘りで行い、機械と人手による洗浄を組み合わせ、だいこん1本、1本に愛情を込めて丁寧に出荷しています。

そのだいこんは、みずみずしく、甘みが強いのが特徴です。



人手による収穫作業



機械と人手による洗浄



自信を持って出荷する奈良さん

にんじん



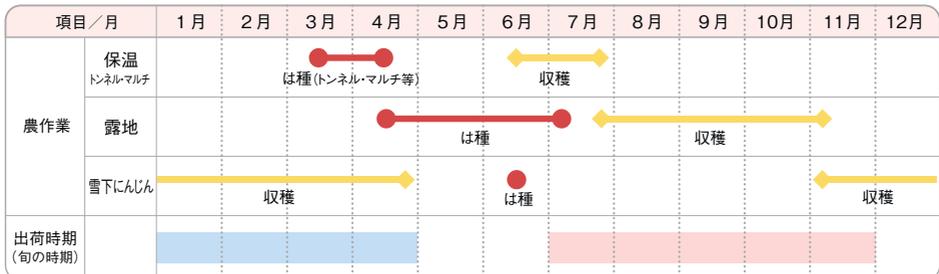
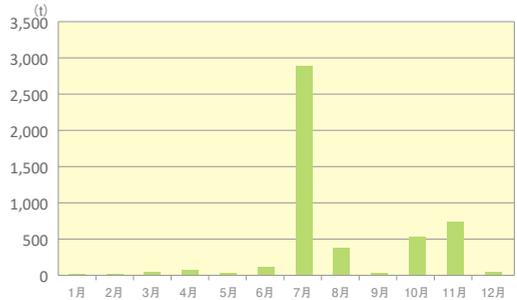
全国4位の出荷量！
7月が出荷のピーク！

青森県のにんじんは、柔らかくて甘みがあり、保存性の高さにも定評があります。県内の主な産地はおいらせ町、三沢市、六戸町、東北町、平川市で、関東の出荷が終わり北海道の出荷が本格化する前の7月が出荷のピークとなっています。また、雪の下から掘り出し、冬の寒さに当てることで甘みや栄養価が増した雪下にんじんが、深浦町を中心に栽培されています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	181,700	4,670
2	千葉	87,200	2,950
3	徳島	46,800	981
4	青森	36,800	1,190
5	長崎	29,100	817
	全国	533,800	17,000

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)

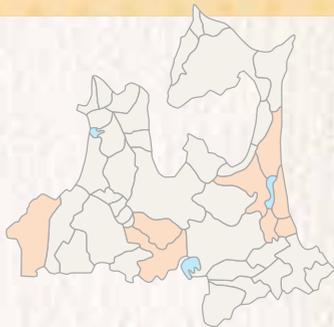


主な産地

春夏にんじん：三沢市、六戸町、東北町、六ヶ所村、
おいらせ町

秋にんじん：黒石市、平川市、東北町、六ヶ所村、
おいらせ町

冬にんじん：深浦町、おいらせ町



産地レポート

南八甲田高原野菜生産組合・大木平地区
(JA津軽みらい)

◆産地の情報

南八甲田高原野菜生産組合は、南八甲田山系の南西に位置する標高350mから750mの高冷地で、夏季冷涼な気象条件を生かして、だいこん、にんじん、レタスなどを生産しています。このうち、にんじんの作付面積は38ha、生産者数は25名となっています。

標高約500mの高原にある平川市大木平地区では、にんじん栽培の歴史が40年以上になります。

この地区では、6月から7月にかけては種し、9月下旬から11月にかけて収穫する秋にんじんのほか、7月下旬には種して雪解け後の4月から5月に収穫する春掘りにんじんの2つの作型で栽培されており、秋にんじんは昭和51年に指定産地になっています。

◆甘いにんじんを作るために

大木平地区の中でもにんじんの作付面積の多い谷川強さんは、にんじんのほかにだいこんやレタス、こかぶも作付しており、これに緑肥（ヘイオーツ）を組み合わせて輪作し、病害虫の抑制や地力の維持に努めています。

また、甘いにんじんになるように、有機質肥料を施用しています。この有機質肥料には、大木平地区のある平川市の畜産農家で作られた堆肥を用いており、谷川さんは食味の向上へのこだわりだけでなく、地域で資源が循環する仕組みも構築しながら栽培しています。

谷川さんの一番のオススメの食べ方は、にんじんを細切りにしての卵とじ、です。また、天ぷらや、生の千切りをサラダにしても、甘みが感じられて美味しくいただけるそうです。



秋の収穫間際のにんじん畑



収穫の様子



谷川さんと採れたたのにんじん

ばれいしょ

北海道・長崎県の2大産地の端境期を
ねらった中堅産地、7月から9月に出荷！



ばれいしょは、全国的には、秋から春までは北海道、春には九州地方からの出荷が多く、青森県はこれらの産地の端境期から出荷し、主な出荷時期は7月から9月です。

県内の主な産地は、横浜町、三沢市、東北町、六ヶ所村など、太平洋側で栽培が盛んです。

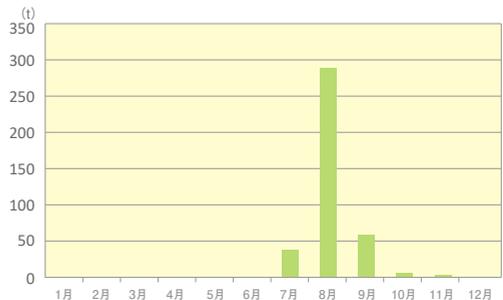
品種は、煮崩れの少ないメークインが多く作付けされています。

地域特有の取組としては、大間町の奥戸（おこっぺ）地区で主に栽培されることからその名が付いた「オコッぺいも」があります。皮色が黄色、形が偏卵形の大きなもで、煮えやすく肉質はホクホク系で皮ごとふかすと皮がぷちんと弾け、ほっこりした食感は男爵いものと似ていますが、さらにサラサラしているのが特徴です。

全国の生産状況 (R1)

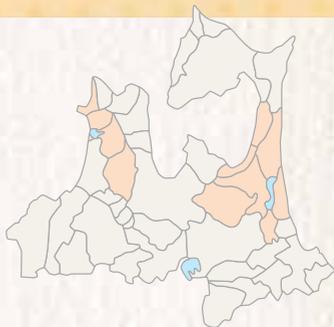
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	1,697,000	49,600
2	鹿児島	87,000	4,580
3	長崎	79,200	3,400
4	茨城	40,800	1,610
5	千葉	24,500	1,180
7	青森	11,800	658
	全国	2,027,000	74,400

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

西北地域：五所川原市、中泊町
 上北地域：三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、
 横浜町、東北町、六ヶ所村



産地レポート

株式会社黄金崎農場（岩木山農場）

◆産地の情報

ばれいしょは、冷涼な気候を好み、年による豊凶の差が小さく、栽培期間が3から4か月と短期間で、後作の導入ができる、経営に有利な品目です。

(株)黄金崎農場では、昭和52年から加工用ばれいしょの作付けを開始し、今では40品種に及ぶ多種多様な品種を取り扱っています。

(株)黄金崎農場のばれいしょの栽培面積は約100haとなっており、チップ用を中心に、コロッケ用や、サラダ用など、多岐にわたり生産しています。



代表取締役の佐々木さん

◆全国各地に出荷されている種いも

(株)黄金崎農場は、加工用のほかに、種いもも生産している農場で、九州地方を中心に、大手製菓会社や種いも販売会社等を通じてほぼ全国に出荷されています。

また、他の産地では作られていない品種の種いもも生産しています。

ばれいしょはいろいろあって本当に面白い!



注目されている品種の一つ
 「デストロイヤー」
 (品種名：グラウンドベチカ)



こかぶ



太平洋からの冷たい風が吹き付けるヤマセ地帯は、夏場のこかぶ栽培に最適！出荷量は全国3位！

かぶには聖護院かぶ、天王寺かぶなどの大型のかぶ、日野菜かぶ、赤かぶなど主に漬物に用いるかぶなど、大きさや用途によって多くの種類がある中で、青森県の主力はこかぶです。

夏場でも涼しい気候の中で生産される青森県のこかぶは、皮が薄く色白で、鮮度がよいと好評を得ています。

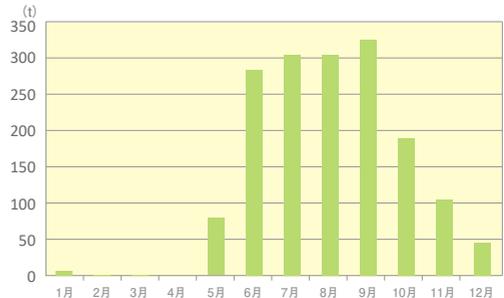
皮をむいて生で食べると、梨のようなみずみずしい食感で、ほのかな甘みを感じられます。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	28,900	904
2	埼玉	13,500	416
3	青森	6,430	189
4	京都	4,310	164
5	滋賀	4,050	177
	全国	933,000	4,210

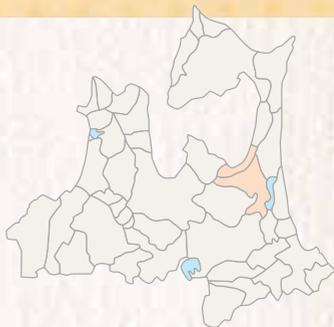
※「かぶ」のデータ

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

上北地域：野辺地町、東北町



産地レポート

J A ゆうき青森野菜振興会こかぶ部会

◆産地の情報

野辺地町は、ヤマセの影響により、夏季に低温・日照不足となりやすい上に、耕地面積も少ないことから、農業振興のためには収益性が高く、しかも女性や高齢者が生産に参画しやすい軽量野菜の取組が必要でした。そこで、野菜品目を模索し、昭和58年からこかぶ栽培への取組が始まりました。



◆生産・栽培上の特色

商品力を強化するため、周辺地域に多い畜産農家が生産した完熟堆肥の投入や、緑肥による健康な土づくりと、被覆資材を活用した農薬節減を基本とした栽培基準を作成し、安全・安心な葉つきこかぶの生産を進めています。

さらに、生産コストの低減と栽培技術の向上を図るため、定期的に情報交換を行い、全国に誇れる品質の確保に日々努めた結果、みずみずしさあふれる高品質な葉つきこかぶを生産しています。

◆出荷の工夫・販売戦略

品質の低下を極力抑えるよう、収穫は気温の低い夜明け前から行われます。収穫後の品質保持のため、各農家は、洗浄機によるスピーディな洗浄と調製作業を行い出荷します。農協では、冷蔵施設や真空予冷施設を計画的に整備し、とれたてのおいしさを食卓に届ける取組が行われています。

これらの徹底した品質管理によって、市場では「夏場の品質日本一」と非常に高い評価を得て、他産地に比べ高値で取引されています。

平成19年11月に、地域ブランド化に向けて「偏東風と大地の恵み野辺地葉つきこかぶ」が商標登録され、平成24年8月には「野辺地葉つきこかぶ」の名称で地域団体商標に登録されました。

さらに平成29年には新しい出荷施設が完成し、野辺地町の特産品として更なるブランド化に向けて取り組んでいます。



真空予冷施設

トマト



東京都中央卸売市場の8月入荷の
トマトは、青森県産がシェア1位！

青森県のトマト生産は、昭和51年から本格的な栽培が始まりました。令和元年度の出荷量は全国12位となっています。

夏場の生産が中心で、特に東京都中央卸売市場への出荷が多く、8月は青森県産のシェアが1位です。昼夜の気温差が大きい青森県で生産されるトマトは、味が良く、日持ちの良さにも定評があります。

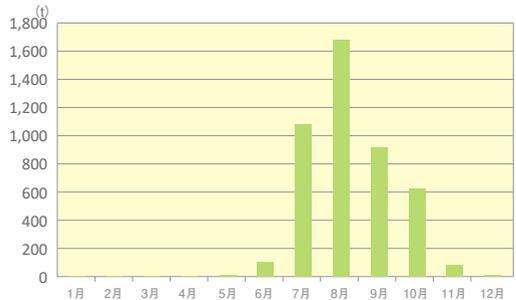
県内各地に産地が形成されており、東青地域（青森市、蓬田村）、中南地域（弘前市、平川市、黒石市）、三八地域（南部町、三戸町）、西北地域（五所川原市、つがる市）、上北地域（七戸町）等が主な産地となっています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	128,800	1,250
2	北海道	56,200	814
3	茨城	41,100	882
4	愛知	41,000	490
5	栃木	32,700	331
12	青森	16,400	365
	全国	648,600	11,600

※ミニトマト、加工用を含む

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋トマト：青森市、平内町、今別町、蓬田村、外ヶ浜町、弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、大鰐町、田舎館村、八戸市、五戸町、階上町、新郷村、三戸町、南部町、田子町、五所川原市、中泊町、板柳町、鶴田町、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、十和田市、七戸町、東北町

冬春トマト：三戸町、南部町



産地レポート

J A 青森トマト部会

◆産地の情報

J A 青森トマト部会の生産者89名で、作付面積は約13haとなっています。夏でも比較的涼しく、寒暖差があるため、甘くて味がよいのが特徴です。管内で生産されたトマトは主に関東へ出荷されています。



蓬田村のトマト団地

◆環境にやさしいトマトづくり

J A 青森管内のトマト部会員全員がエコファーマーを取得しており、おいしいだけでなく、環境にやさしい安心・安全なトマトづくりに励んでいます。



目揃会の様子



◆地域ぐるみでのトマト生産

「人との距離が近く、周りの農家が色々教えてくれた。農業が始めやすい地域だと思う」と語るのは、蓬田村で栽培をしているJ A 青森トマト部会長の津島鉄平さん。津島さんはもともと農家ではありませんでした。就農時、村の農家の方に生産技術等をたくさん教わったそうです。

トマト部会では年に数回現地講習会を行い、部会員同士の情報共有や意見交換等を行っています。

今後の目標は、おいしさはそのままに、収量にもこだわったトマトを生産していくことだそうです。



部会長の津島さん

ミニトマト



人気上昇中！
東京都中央卸売市場の8月入荷量は全国2位！

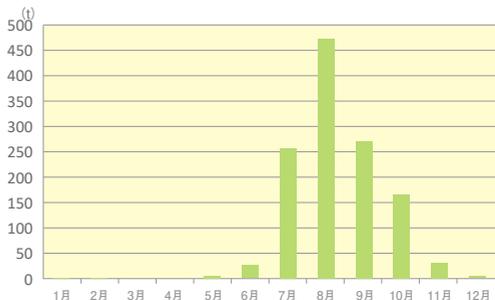
ミニトマトは近年、サラダの付け合わせなどに多く利用されるようになり、消費が急増していることに加え、さらに近年の高値販売や、高齢化により大玉から切り替えが進んでいることから、全国的に作付面積が微増しています。

県内では、転作田への作付や技術面の取り組みやすさから生産が拡大しており、中南地域（弘前市・平川市・大鰐町・田舎館村）、西北地域（五所川原市・つがる市）、三八地域（八戸市）、東青地域（青森市、蓬田村）が主な産地となっています。

全国の生産状況 (R1)

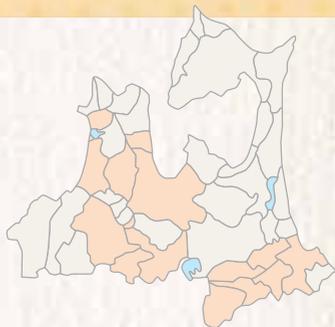
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	36,500	451
2	北海道	15,100	305
3	愛知	13,100	133
4	宮崎	9,370	117
5	茨城	6,100	202
13	青森	3,020	62
	全国	140,500	2,600

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

東青地域：青森市、蓬田村
 中南地域：弘前市、平川市、大鱈町、田舎館村
 三八地域：八戸市、五戸町、新郷村、三戸町、
 南部町、田子町
 西北地域：五所川原市、つがる市



産地レポート

中南地域

◆産地の情報

中南地域全域で生産されているミニトマトは、主に関東、東海地方へ出荷されています。令和元年の管内農協部会員は216名、栽培面積は21.8haとなっています。

ミニトマトは安定した需要があり、産地では食味のよい赤系品種のサンチェリーピュアを主体に作付しています。



◆伸び盛り産地

ミニトマトは技術的に比較的簡単で軽量なことから、新たに農業に取り組む方や年配の生産者でも作りやすく導入しやすい作物です。また、ミニトマトを経営の柱として選択する新規生産者や、りんごや水稲の複合品目として導入する生産者が増加し、年々生産が拡大しています。

◆関係者一体となった産地づくり

産地では、県やJA等の指導機関だけでなく、ベテラン生産者も、新たにミニトマトを作る生産者や若手生産者に対して、栽培技術や経営についての相談役を担っています。



また、生産者同士で相談しあえるようなコミュニティづくりにより、新たに農業やミニトマトを栽培する生産者の不安を解消し、栽培技術のレベルアップを図っています。

メロシ



メロンの出荷量は全国5位！
 値頃感と高い糖度がセールスポイント！

青森県のメロシは、ほとんどが雨除けトンネルで栽培され、ネット系メロシを中心に、白皮品種、黄皮系品種を組み合わせるバランスのとれた栽培を行っています。

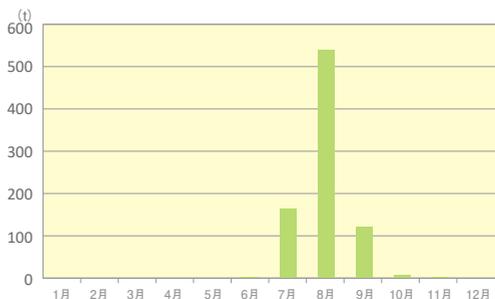
出荷量は全国5位と上位に位置しています。出荷先は東海・近畿地方が多く、8月がピークとなっています。

青森県の主力品種である「タカミ」は、果肉が緑色で厚く、肉質はやや硬めで日持ち性が良く、糖度が16度前後と極めて高いという特性があります。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	茨城	35,500	1,250
2	熊本	23,000	872
3	北海道	21,600	958
4	山形	9,780	527
5	青森	9,260	526
	全国	141,900	6,410

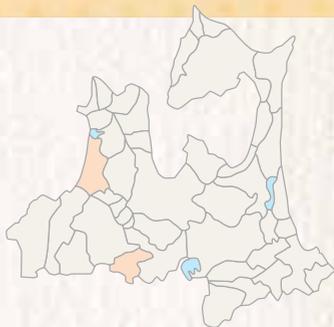
県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業												
	露地トンネルI型		は種(ハウス) → 定植					← 収穫				
露地トンネルII・III型		は種(ハウス) → 定植					← 収穫					
出荷時期 (旬の時期)								■				

主な産地

中南地域：大鰐町
西北地域：つがる市



産地レポート

つがる市

◆産地の情報

つがる市の西側に広がる屏風山砂丘地域は、水はけが良いこと、昼夜の温度較差が大きいことから、メロン栽培に最適な環境条件を有し、全国有数のメロン産地となっています。



◆優れた栽培技術

環境条件と並んで重要なのは栽培技術です。40年以上にわたりに培われた栽培技術は地域にとって大きな財産となっています。また、メロンは手間暇を掛けないと品質の良いものができないことから、生産者は惜しみない努力を続けています。

自慢のメロンをぜひ味わってください!



若手生産者の樋口さん

◆JAごしょつがる木造総合支店における共同選別・出荷

平成24年度に、JAごしょつがるでは、高画素CCDカメラセンサー付選果機を導入し、等階級の格付け及び糖度測定をこれまでより速く正確にできるようになり、糖度表示等による付加価値の高いプレミアムメロンの出荷が可能になりました。

平成28年度からは、JAつがるにしきたのメロンもこの選果機を利用し、平成29年には、販売を一元化するため、「つがるメロン協議会」を設立して、専用箱による出荷を開始しました。



◆信頼される産地づくり「つがるスランド」

つがる市では、市内で生産されたメロン等8品目を対象に、エコファーマーの取得等独自の基準を設けて「つがるスランド」に認定しており、認定されたメロンは、つがるスランドとして各地へ出荷しています。



◆通年栽培に向けた新たな挑戦

メロンは栽培期間が春から夏に限定される品目ですが、つがるスランドの知名度向上や新規就農者の確保等を目的として、令和2年度から「つがる市メロン水耕栽培技術研究会」を組織し、「町田式水耕栽培システム」を利用したメロン通年栽培の実証事業に取り組んでいます。

すいか



屏風山地域が主産地！昼夜の気温差が大きく
水はけが良いため糖度抜群！

青森県での主な産地は、鱒ヶ沢町からつがる市に広がる日本海岸の屏風山（びょうぶさん）地域であり、県内の8割以上が生産されています。

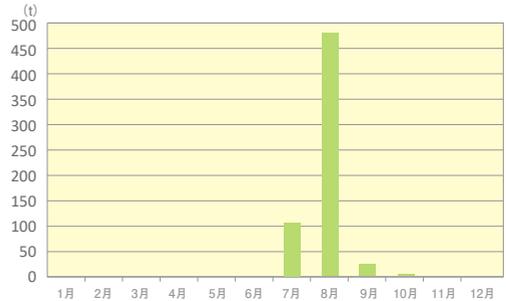
8月を中心に、関東、東海、近畿地方向けに出荷されています。

品種は縞王系、縞無双、祭りばやしを主体に、姫甘泉、ひとりじめなどの小玉すいか、枕形の紅まくらなどが導入され、いずれも果肉の発育が良く、肉質がきめ細かくしまっており、甘さ抜群で日持ちも優れています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	49,100	1,330
2	千葉	35,900	1,010
3	山形	27,200	810
4	鳥取	16,400	375
5	長野	15,900	333
14	青森	7,250	296
	全国	279,100	9,640

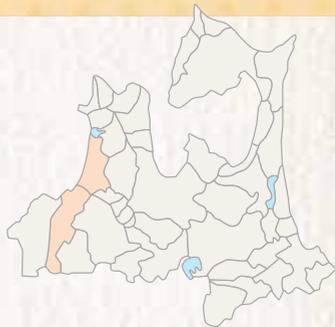
県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



項目/月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	ハウス			は種(ハウス)	定植			収穫					
	露地 トンネル			は種(ハウス)	定植			収穫					
出荷時期 (旬の時期)													

主な産地

西北地域：つがる市、鱈ヶ沢町



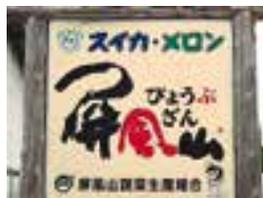
産地レポート

屏風山蔬菜生産組合

◆産地の情報

屏風山地域で本格的なすいか栽培が始まったのは、昭和30年代半ばといわれています。地域特有の気候（昼夜の温度較差が大きい）と水はけの良い土地が、精度を格段に高め、甘くてジューシーだと評判になりました。

昭和40年には、安定した品質・生産・出荷量を確保するため「屏風山蔬菜生産組合」が組織されました。



◆夏場の産地として市場から高い評価

主力品種は「津軽丸」、「羅皇（らおう）」、「紅まくら」で、出荷時期は7月中旬から8月末となっています。名古屋、東京などの市場に出荷され、夏場の産地として市場から高い評価を得ています。

ブランドの名に恥じない、
確かな「屏風山西瓜」をお届けします。

◆ブランドすいか「屏風山西瓜」

昭和44年に「屏風山西瓜」で商標登録を行い、ブランド化に努めてきました。

味を凝縮させるため1株に1、2個だけ着果させるなど、おいしいすいかの生産にこだわっているほか、インターネットによる栽培履歴の開示、組合員全員がエコファーマーを取得するなど、安全・安心な農業を目指しています。



組合長の横山さん

きゅうり



三八地域に生産が集中！
関東向けの出荷が大半を占める！

きゅうりは、形状、鮮度に加えて、色、光沢など外観が重視される傾向が強く、青森県ではスルームレスきゅうり（きゅうりの表面に白い粉がないもの）が主流となっています。

近年は、味にこだわったスルームきゅうりや青森県に古くから伝わる糠塚きゅうりなど、こだわりの個性派も出荷されています。

県内の主な産地は、五戸町、新郷村、十和田市などとなっています。

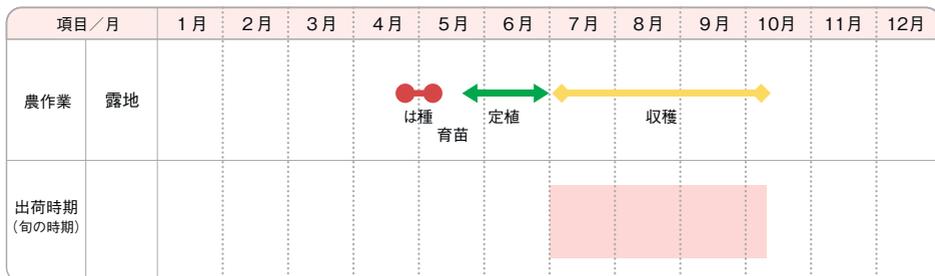
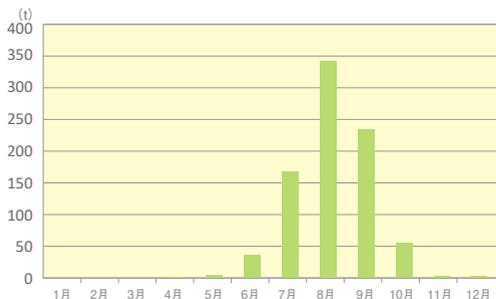
『糠塚きゅうり』とは

八戸地方で6月下旬～8月のお盆にかけて出回るシベリア系の在来種。藩政時代に持ち込まれ、八戸市の糠塚地区で栽培されたのが始まりとされています。短太でイボが黒く堅い果皮ですが、中身は歯切れの良いみずみずしい食感です。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	宮崎	59,600	643
2	群馬	52,900	821
3	埼玉	41,100	623
4	福島	34,200	682
5	千葉	26,100	452
25	青森	4,860	145
	全国	474,700	10,300

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋きゅうり：弘前市、大鰐町、八戸市、五戸町、階上町、
新郷村、三戸町、南部町、田子町、
十和田市



産地レポート

J A八戸野菜総合部会きゅうり専門部

◆産地の情報

三八地域は県内の夏秋きゅうりの産地です。その産地を支えるJ A八戸野菜総合部会きゅうり専門部は、合併前の旧川内農協や旧新郷村農協に昭和60年代に設立された部会がはじまりです。令和元年の生産者数は92名、共販面積は10haとなっています。特に新郷村は若手生産者が多く、県内の産地を牽引しています。



きゅうりボーイズ



新郷村の若手生産者の坂根さん

主な作付品種は「大望」で約8割、他は「ほつきこう」が約2割を占めます。生産されたきゅうりは、関東方面に向けて出荷されています。

◆良いものをより多く

部会では「単収10t以上」を目標に、栽培講習会や管内視察研修、品種比較試験を実施しています。

栽培講習会は、その地域で多く作付されている品種の種苗メーカーと合同で開催し、品種にあった栽培管理の周知に努めています。

また、収穫時期は作業に追われ、管理作業が後回しになり、病気が発生する原因になります。品種比較試験では、労働力が少ない生産者でも品質を落とすことなく生産できる品種の選定を目指しています。



栽培講習会の様子

ピーマン



高齢者や女性が生産を支える！出荷量は全国8位も
夏場の首都圏の需要に欠かせない産地！

青森県のピーマンは、7月から10月に出荷される夏秋ピーマンが中心で、東青地域や三八地域などに産地が形成されています。

8月から9月に出荷のピークを迎え、東京都中央卸売市場のシェアは全国4位を誇ります。

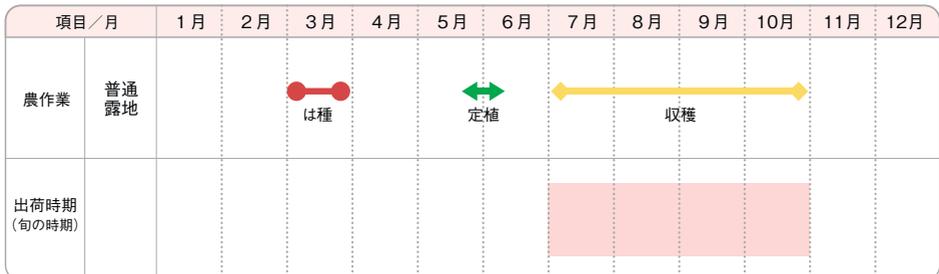
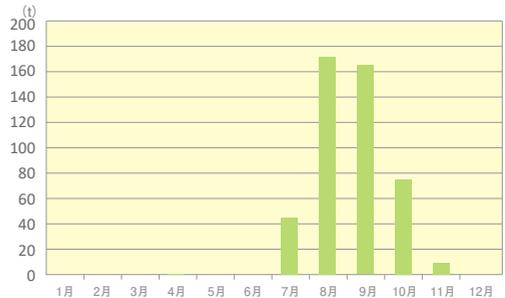
収穫は、すべて手作業となることから、多くの収穫労働力を必要としますが、果実が軽いことから、高齢者や女性が比較的取り組みやすい品目として定着しています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	茨城	31,800	543
2	宮崎	26,200	305
3	高知	13,200	125
4	鹿児島	12,000	146
5	岩手	6,820	189
8	青森	3,310	95
	全国	129,500	3,200

※ししとうを含む

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋ピーマン：青森市、平内町、弘前市、平川市、八戸市、
五戸町、階上町、新郷村、三戸町、南部町、
田子町、十和田市



産地レポート

J A 八戸野菜総合部会ピーマン専門部

◆産地の情報

J A 八戸のピーマン専門部の令和元年の生産者数は335名で、作付面積は30.8haとなっています。メインの露地の夏秋もののほか、トンネルの半促成栽培、一部でハウスの促成栽培もあり、作期の幅が広い産地です。

平成22年には夏秋ピーマンの指定産地に指定され、県内随一の産地が形成されています。



◆良品・安定生産に向けて

J A では、栽培技術向上のための講習会や出荷規格統一のための目揃い会などを定期的に開催し、収量や品質向上を後押ししており、そこには常に多くの参加者があり、熱心に技術を磨いています。

また、新品種の導入にあたっては、品種の試作試験を行い、産地にあった品種を検討するなど、良品多収生産に向けて産地一体となって取り組んでいます。

これらの取組がたたえられ、令和2年度には「青森県攻めの農林水産業賞」収益力強化部門の奨励賞を受賞しています。



ピーマン専門部部長の梶沢さん

◆みんなで産地を盛り上げる

ピーマン専門部部長の梶沢さんは「自分だけよくてもダメ。みんなの力で八戸のピーマン産地となっているから」と笑顔で力強くお話ししてくださいました。栽培講習会や目揃い会は会員の情報共有の場になっており、お互いが交流しながら切磋琢磨し、技術を磨くことで産地の活性化にもつながっています。

いちご



「冬春いちご」は、冬場の日照時間が長い太平洋側が主産地！ 夏季涼涼な気候を生かした「夏秋いちご」も生産拡大中！

いちごには、11月から6月にかけて収穫される「冬春いちご」と7月から10月にかけて収穫される「夏秋いちご」があります。

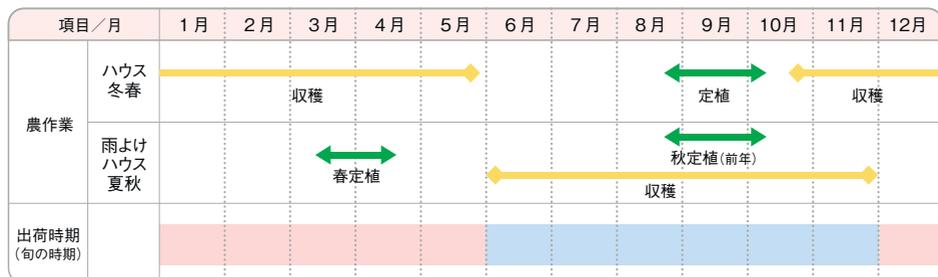
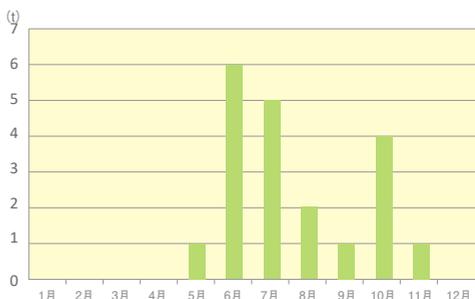
青森県のいちご生産は、「冬春いちご」が多く、冬場の日照時間が長い太平洋沿岸の八戸市が主産地で、出荷は県内市場へのお荷が中心となっています。

また、近年、青森県の夏季涼涼な気候を活かした「夏秋いちご」が、中南地域と下北地域を中心に産地化が進み、県内各地に広がりを見せています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	栃木	23,900	533
2	福岡	15,900	439
3	熊本	11,800	309
4	長崎	10,700	273
5	静岡	9,910	293
24	青森	996	86
	全国	152,100	5,110

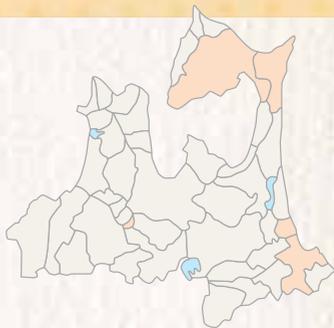
県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

冬春いちご：田舎館村、八戸市、おいらせ町

夏秋いちご：田舎館村、東通村、むつ市



産地レポート

J A 十和田おいらせむつ支部果菜部会

◆産地の情報

下北地域の夏秋いちご生産は平成16年から始まり、生産者19戸、作付面積3.1haと地域を代表する作物となっています。4月下旬から11月にかけて四季成り性品種「すずあかね」、「赤い妖精」が栽培されています。特に、「すずあかね」は果肉が硬く店持ちがよいため、実需者から高い評価を得ています。

◆夏季冷涼な下北は夏秋いちごの栽培適地

夏秋いちごは、国内いちごの生産量が少ない6月から10月にケーキなどの業務用として利用されています。下北地域は、夏の暑さに弱いいちごの栽培に最適ですが、近年の温暖化の影響もあり、部会員は換気や遮光を組み合わせるなど、高温対策に徹底して取り組んでいます。

今後は、有利な気象条件を生かしながら産地全体の栽培技術を高め、高品質で収益性の高い夏秋いちご生産を目指していきます。

◆新規就農者による面積の拡大

夏秋いちごの生産拡大に向けて、J A 部会長自ら研修生や新規就農者を受け入れ、積極的に技術指導を行ってきました。ここ数年、新規就農者の受入体制の充実により夏秋いちご栽培をスタートする人が増え、現在は生産者の約半数が新規就農者となっています。

若手生産者は、「下北の夏秋いちご」の知名度アップに向け、加工品開発やイベントでのPRなどで活躍しています。



すずあかね



部会長の村田さん



新規就農者研修会の様子

えだまめ



転作作物として定着！7月から10月まで、
安定した出荷で需要に応える！

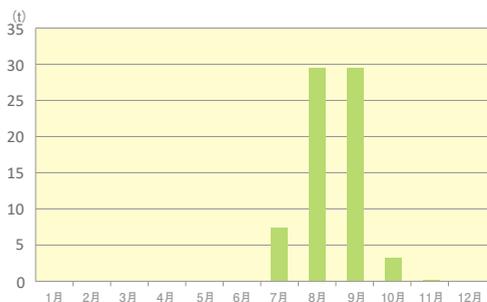
青森県のえだまめは、田子町、弘前市、鶴田町などで転作田を中心に栽培されています。品種を組み合わせることで作付けし、7月から10月まで出荷しています。

8月下旬以降は、食味の良い在来種の「毛豆」や「毛豆」から生まれた「あおり豊丸」、「あおり福丸」が出荷されます。莢に茶色のフサフサした毛があり、粒がとても大きく、味が濃いのが特徴です。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	5,430	1,200
2	群馬	5,390	1,100
3	千葉	5,180	760
4	山形	4,890	1,480
5	秋田	4,430	1,380
16	青森	435	265
	全国	50,500	13,000

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



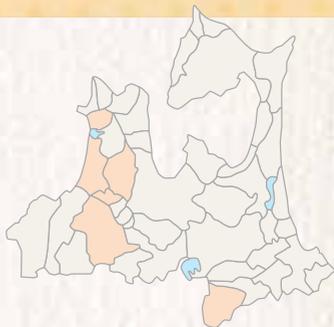
項目/月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	露地・移植 マルチ				●は種 ← 定植 →			← 収穫 →					
	露地				●は種			← 収穫 →					
出荷時期 (旬の時期)								■					

主な産地

中南地域：弘前市

三八地域：田子町

西北地域：五所川原市、鶴田町、つがる市



産地レポート

JA八戸野菜総合部会豆類専門部田子支部

◆産地の情報

田子町のえだまめの栽培の歴史は古く、40年以上になります。現在は、JA八戸野菜総合部会豆類専門部の田子支部として、生産しており、生産者数45名、栽培面積は12haの産地となっています。

田子支部では、生産したものを単に販売するだけではなく、お客様のニーズ（市場の要望）にしっかり応えることを大切にしています。



えだまめ畑と生産者の皆さん

◆県認証の特別栽培の取組

平成12年の県の認証制度の開始当初から、市場からの要請に応じて、農薬や化学肥料の使用量を通常の5割以下に減らして生産する特別栽培に取り組んでいます。

◆施肥と病害虫対策

田子町は畜産も盛んなことから、地域内循環を目指して町内で生産された良質な堆肥を施用しているほか、良食味のため、有機質肥料を活用しています。

また、ダイズシストセンチュウの密度が高まった時には、対抗植物（クリムソクローバー）をすき混むことで、密度低減を図り被害を軽減しています。花が咲く5月中旬には、深紅のじゅうたんのように真っ赤な花が一面に広がります。



対抗植物（クリムソクローバー）

◆独自の仕立と丁寧な収穫・調製

田子支部のえだまめは、主に枝付きのまま関東の市場に出荷され、その甘みの強さと鮮度の良さから、高値で取引されています。枝付きで出荷するには、茎の長さや太さを調節する独自の仕立ができればなりません。

また、収穫と調製は、傷みを無くするため全て手作業で行い、丁寧に洗浄した後に、一つ一つ葉を落として選別します。

出荷基準を守ったえだまめだけが、生産者の名前付きの専用の袋に詰められ出荷されるのです。



手作業での調製

さやいんげん



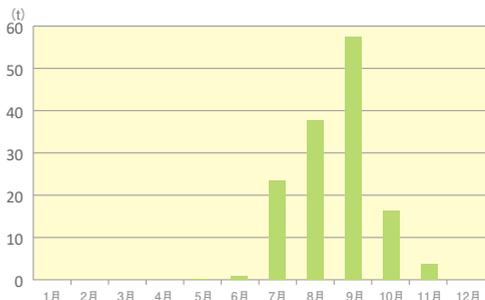
温暖で夏季冷涼な気候を好む！
東京都中央卸売市場の9月入荷量は全国2位！

緑色野菜で栄養価が高いうえ用途が幅広いため、消費が伸びています。
県内及び東北向けは平莢、東京向けは丸莢が主体となっています。代表的な品種として、平莢品種では「マンズナル」、丸莢品種では「スーパーステイヤー」が栽培されています。
夏場に生産され、東京都中央卸売市場の9月の入荷量では、青森県産が福島県産に次ぐ全国2位を誇っており、国内出荷量の約2割を占めます。

全国の生産状況 (R1)

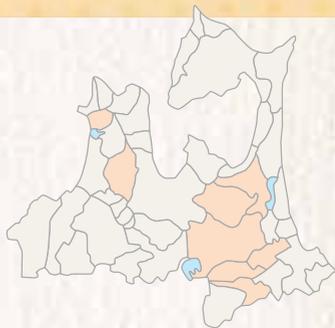
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	4,470	558
2	千葉	4,340	450
3	福島	2,170	474
4	鹿児島	2,080	234
5	沖縄	1,870	168
13	青森	437	102
	全国	25,800	5,190

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

三八地域：五戸町、新郷村、三戸町
 西北地域：五所川原市
 上北地域：十和田市、七戸町、東北町



産地レポート

J A八戸野菜総合部会豆類専門部

◆産地の情報

八戸市、五戸町、南部町を中心に生産者142名がさやいんげんの栽培に取り組み、作付面積は5.5haで、県内1位の産地となっています。

作型は、移植栽培と直播栽培で、収穫・出荷は5月下旬から10月下旬まで行われています。

鮮度管理を徹底し、新鮮なさやいんげんを常に出荷するよう部会員一丸となって取り組み、市場から高評価を得ています。



◆鮮度の良い物をしっかり出荷

「さやいんげんは、高うねなど排水対策を徹底した水はけの良い畑、堆肥等による土づくり、生育に合わせた適正施肥が重要」「鮮度を保つため、出荷のピーク時には朝夕の2回採りを必ず行う」「水分が蒸散しないように収穫から選別、段ボールに詰めるまでの管理が重要」と話してくださったのはJ A八戸野菜総合部会豆類専門部副部会長の館良男さん。

「部会全員で適期収穫を心がけており、毎年、6月には専門部による管内視察を行って、部会員同士の情報交換に努めている」「出荷規格を簡素化して、部会員の作業労力軽減と収量向上に努めている」と専門部の活動についても紹介していただきました。



豆類専門部副部会長の館さん

J A八戸のさやいんげんは、鮮度が良く美味しいので、ぜひ、食べてみてください！

ねぎ



ながいもなどの輪作や転作田への導入
で生産が拡大！

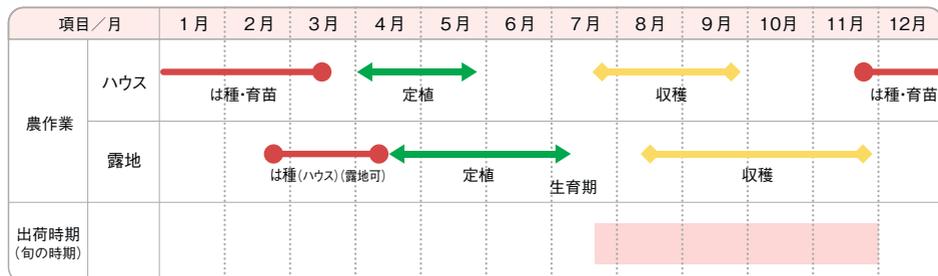
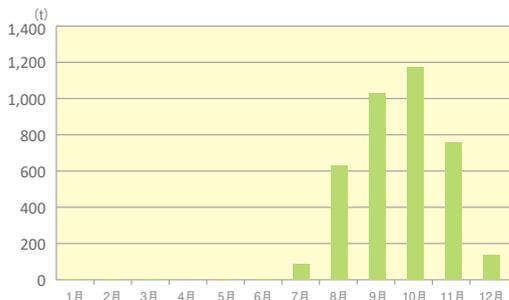
関東では白い部分が長い根深ねぎ（白ねぎ）が好まれ、関西では緑色が大部分の葉ねぎが好まれますが、青森県での生産は、土寄せをして軟白化させた根深ねぎが主体となっています。

県南地域ではながいも等との輪作作物として、また、津軽地域では主に水田の転作作物として作付けされています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	58,200	2,150
2	埼玉	47,000	2,390
3	茨城	45,600	2,000
4	北海道	19,200	623
5	群馬	16,100	1,030
10	青森	9,650	498
	全国	382,500	22,400

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏ねぎ：青森市、八戸市、五戸町、階上町、新郷村、三戸町、南部町、田子町、五所川原市、中泊町、つがる市、十和田市、七戸町、東北町
 秋冬ねぎ：平川市、八戸市、五戸町、階上町、新郷村、三戸町、南部町、田子町、五所川原市、中泊町、つがる市、深浦町、十和田市、三沢市、七戸町、東北町



産地レポート

J A 十和田おいらせ野菜振興会ねぎ専門部会

◆産地の情報

J A 十和田おいらせ野菜振興会ねぎ専門部会は、十和田市とその近隣町村の200名で構成され、約100haのねぎ栽培に取り組んでいます。



◆評価の高い「ぼけしらずネギ」

J A 十和田おいらせは、栄養バランスの整った健康な土壌での野菜づくりを目指しています。健康な土壌をつくるため、堆肥分析装置や土壌分析・診断システムを導入して徹底した土壌分析を行い、過剰な肥料成分は控え、不足している肥料分だけを補給しています。

このような土壌で栽培し、出荷前の糖度と硝酸値が基準を満たした野菜が「十和田おいらせミネラル野菜 (TOM - VEGE (トムベジ))」スランドとなります。その中で、ねぎは、ほぼ全量がミネラル野菜として出荷されます。

さらに、最終培土後に手作業できちんと土寄せすることで、葉身の緑と軟白部分の白色の境目がはっきりとした「ぼけしらずネギ」として、市場から高い評価を得ています。

◆高品質生産への取組

部会員である十和田市大深内地区の水尻忠司さんは、健康な土壌から安全・安心なねぎを生産するため、土壌分析・診断に基づく適正施肥により、高品質なねぎ生産に取り組んでいます。



水尻さん夫妻

キャベツ



東京都中央卸売市場の8月入荷量は
全国5位！

青森県のキャベツは、7月から10月に生産される夏秋キャベツを中心に出荷されており、主な産地は、おいらせ町、平川市などとなっています。

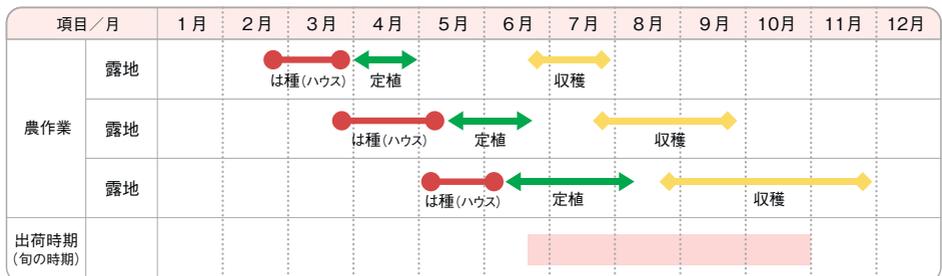
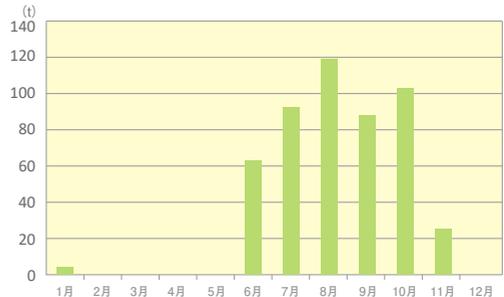
キャベツの品種・系統としては、「春系」や「寒玉系」などが代表的で、春系（サワー系）は葉がやわらかでサラダ向き、寒玉系は葉がややかためで加熱すると甘くなることから餃子やロールキャベツに向きます。

青森県では、春系をメインに、用途や生産時期に応じて寒玉系も生産されています。

全国の生産状況 (R1)

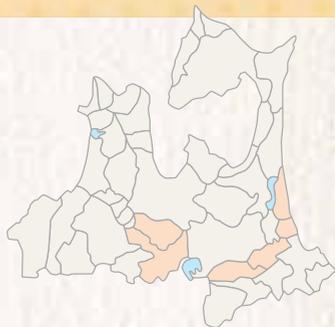
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	愛知	253,300	5,430
2	群馬	249,000	4,050
3	千葉	103,300	2,750
4	茨城	99,200	2,370
5	鹿児島	69,500	2,050
14	青森	15,000	461
	全国	1,325,000	34,600

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋キャベツ：黒石市、平川市、五戸町、新郷村、三沢市、おいらせ町



産地レポート

JA十和田おいらせももいし支部

◆産地の情報

JA十和田おいらせももいし支部のあるおいらせ町は、県内一の夏秋キャベツの産地として、県内外から高い評価を得ています。

JAでは、国内需要への対応と生産者の所得確保、収益性向上を目的に、平成18年から加工・業務用キャベツの生産に取り組んでいます。



◆契約取引の取組

JAでは、主にサラダ商品用の材料として、県内外の流通・加工業者と加工・業務用キャベツの契約取引を行っています。

令和元年は契約取引先4社に約280tを出荷しました。



スチールコンテナでの出荷

◆収益性向上に向けた取組

取引量を拡大し収益性向上につなげるため、JAでは品種比較試験を行い、球のしまりが良く内葉に青みが残る品種を選び、取引先が要望する品種の作付けを進めています。現在の主な作付品種は「みくに」と「慶春」です。

また、出荷作業にスチールコンテナを利用し、省力化と流通経費の低減に努めています。

レタス



涼しい気候の八甲田高冷地が産地！
高原レタスは鮮度の良さが決め手！

レタスといえば高原野菜の代表格として、長野県や群馬県をイメージする方も多いと思います。冷涼で乾燥した気候を好むレタスは、青森県の気候にも合い、夏秋期に生産されています。

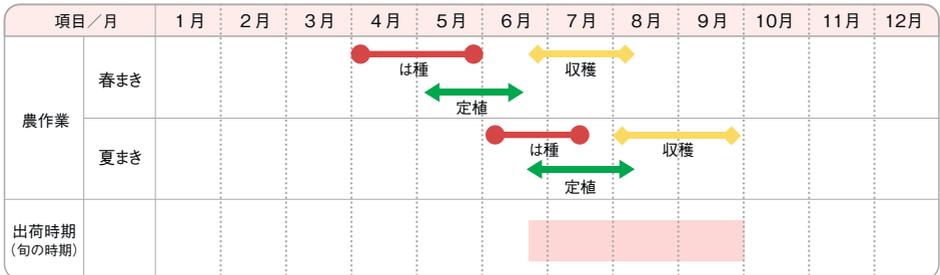
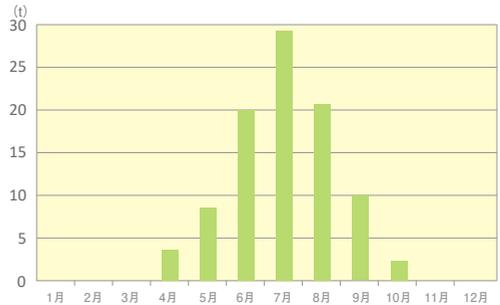
主な出荷時期は、5月から9月が中心となっています。主な産地は、中南地域（弘前市、平川市、黒石市）の高冷地で、夏季も冷涼で昼夜の気温差が大きく夏秋期のレタスの生産に適している地域です。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	長野	191,500	6,040
2	茨城	83,300	3,460
3	群馬	48,600	1,340
4	長崎	32,600	953
5	兵庫	28,700	1,220
20	青森	1,900	88
	全国	545,600	21,200

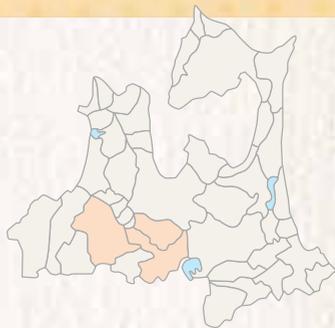
※サラダ菜を含む

県産月別入荷量 (R1 全農青森県本部取扱)



主な産地

夏秋レタス：弘前市、平川市、黒石市



産地レポート

有限会社サニタスガーデン

◆産地の情報

夏季冷涼な高冷地は、暑さに弱い野菜の栽培に適しています。昼は涼しいながらも、夏の日差しを受けて光合成が進むことで、全身に糖類が蓄えられます。

夜温が高いと糖類は呼吸に使われてしまいますが、夜温が低いと糖類の消費が少なく、野菜は甘くなります。

(有) サニタスガーデンのある沖揚平は、八甲田横岳の西側、標高650から800mに位置する高原で、広大な野菜畑が広がっています。



緑色のリーフレタス

◆品質の良いレタスを届けたい

社長の山田広治さんは、神奈川県出身。青年海外協力隊員として、アフリカで野菜の栽培指導をしたこともあります。(株) 野菜くらぶの独立支援プログラムに参加し、群馬県でレタスの栽培技術を習得しました。

もっと品質の良いレタスを消費者に届けたいとの思いから、八甲田山高冷地の黒石市沖揚平に移住して、(有) サニタスガーデンを立ち上げました。



山田さんと赤いリーフレタス

◆大手ハンバーガーチェーンと全量契約栽培

(有) サニタスガーデンでは、現在3名の社員と、繁忙期には5、6名に作業を手伝ってもらい、10haの畑でレタスを栽培しています。季節を変えながら10種類以上の品種を栽培しており、4月の育苗から始まり、収穫は10月まで続きます。品質の良さと新鮮さから、契約先から高い評価を得ています。

ほうれんそう



ほうれんそうは秋からが旬！
夏場も涼しい青森県は1年中栽培可能！

暑さに弱いほうれんそうは、夏が暑い他県では生産が困難です。このため、青森県では、涼しい気候を生かし、6月から9月を中心に生産されています。

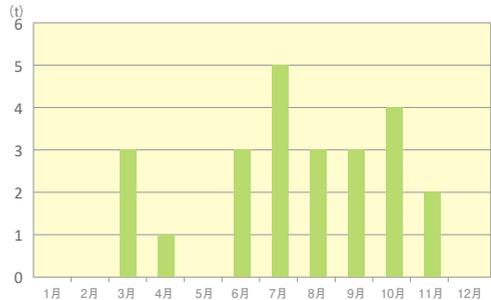
寒さには強く、冬でも無加温ハウスで栽培できることから、年間を通じた生産も行われています。

は種から約1ヶ月で収穫でき、軽作業でできることから、高齢者でも生産が可能です。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	埼玉	20,100	2,010
2	群馬	18,500	1,890
3	千葉	17,200	1,910
4	茨城	14,400	1,240
5	宮崎	14,300	1,000
-	青森	-	200
	全国	184,900	19,900

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



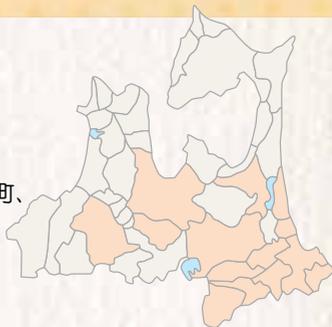
主な産地

東青地域：青森市

中南地域：弘前市、黒石市

三八地域：八戸市、五戸町、階上町、新郷村、三戸町、
南部町、田子町

上北地域：十和田市、三沢市、東北町、おいらせ町



産地レポート

J A八戸野菜総合部会振興野菜専門部

◆産地の情報

J A八戸野菜総合部会では、冬場の所得確保のために、平成17年から新郷村で輪ギクの後作として寒締めほうれんそう栽培の取組を進めています。このほうれんそうは、9月下旬から10月上旬は種直後からハウスを開放し、寒さに当てることによって、通常より甘みを増した「寒締めちぢみほうれんそう」として12月中旬から2月下旬頃まで販売しています。

この取組は年々拡大して、現在、八戸市、五戸町、南部町などJ A八戸管内全域に広がり、生産者は64名、栽培面積は約4haの産地となっています。



栽培中のほうれんそう

◆ブランド化に向けた取組

J A八戸では、寒締めちぢみほうれんそうのブランド化を図るために、出荷先の市場や県の農業普及振興室と連携した栽培研修会等を開催しているほか、栽培マニュアルの作成や、マルチ栽培による茎葉への土の付着防止、土壌肥料分の測定による適正な施肥管理など栽培技術の向上に努めています。

また、出荷前には、糖度8度以上を確認してから出荷するなど、品質や規格を統一した販売を行っています。



寒締めちぢみほうれんそう



栽培研修会の様子

ブロッコリー



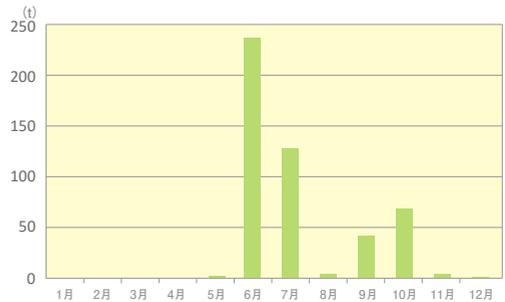
転作田への導入で生産拡大！夏季冷涼な気候で全国的に品薄な夏秋期に出荷！

ブロッコリーは、夏期は北海道や長野県、秋冬期は愛知県や埼玉県から出荷が多く、青森県ではこれらの産地の端境期となる6月と10月を中心に生産・出荷されています。主な出荷先である首都圏では、鮮度の良さで高い評価を得ています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	25,600	2,700
2	愛知	14,600	955
3	香川	14,400	1,390
4	埼玉	13,100	1,260
5	徳島	11,100	940
23	青森	1,080	174
	全国	153,700	16,000

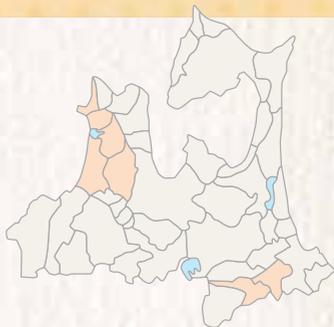
県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	マルチ春まき											
			● ← 定植		← 定植		◆ 収穫					
			● ← 定植		← 定植		◆ 収穫					
農作業	夏まき											
			● ← 定植		← 定植		◆ 収穫					
農作業	夏まき											
			● ← 定植		← 定植		◆ 収穫					
出荷時期 (旬の時期)						■		■				

主な産地

三八地域：三戸町、南部町
 西北地域：五所川原市、中泊町、つがる市



産地レポート

J A つがるにしきた

◆産地の情報

つがる市は、津軽平野の岩木川左岸に位置する古くからの米どころで、米の生産調整の強化を背景に、早くからトマトやねぎ等との複合経営化が進められてきました。

その中で、スロッコリーは平成8年に作付が開始され、他



品目と労力が重ならず夏場に収益が得られる品目として生産が拡大し、平成27年には出荷額が2億円を突破しました。作付面積が約70haと県内随一の産地が形成され、その波及効果により近隣市町でも近年、作付が増えています。



◆鮮度を保持する出荷体制を整え市場から高評価

気温の低いうちに収穫したスロッコリーは、すぐに集出荷施設へ搬入され、選別、発泡スチロール箱への箱詰めを経て、保冷库に保管されます。翌朝、細かく砕いた氷が箱いっぱい詰められ、鮮度と美味しさを保ったまま保冷車で首都圏に出荷されていきます。

集出荷施設は、予冷库2基に加え、貯水量8tの製氷貯氷機を備えています。

氷詰め出荷により、鮮度とおいしさが保たれ、首都圏の市場からも高い評価をいただいています！



J A つがるにしきた
坂本さん



選果・箱詰め



予冷库保管



氷詰め

スイートコーン



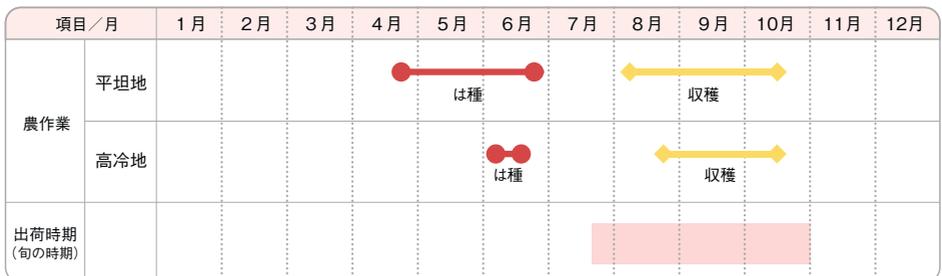
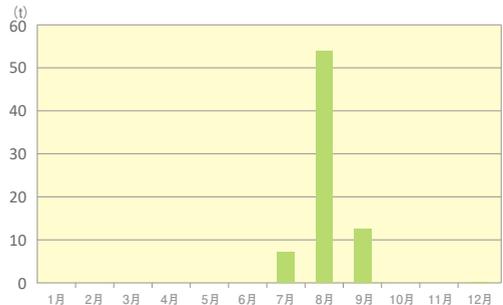
日中と夜間の温度差が甘さの秘訣！
出荷のピークは8月！

スイートコーンは、栽培が容易で労力がかからないこと、またイネ科作物として一般野菜との関連病害が少ないため、他の野菜との輪作体系に組み込むことが可能な作物です。
青森県の岩木山麓の嶽地区産は食味評価が高く、「嶽きみ（だけきみ）」の商標で販売されており、全国的に有名な産地となっています。

全国の生産状況 (R1)

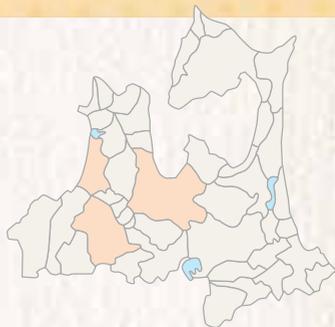
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	95,600	8,460
2	千葉県	13,200	1,730
3	茨城県	12,300	1,260
4	群馬県	9,800	1,180
5	山梨県	6,610	750
13	青森県	1,860	437
	全国	195,000	23,000

県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

東青地域：青森市
中南地域：弘前市
西北地域：つがる市



産地レポート

J A つがる弘前嶽きみ部会

◆産地の情報

弘前市の西部にある津軽富士とも称される「岩木山」。その岩木山の南麓、標高400から500メートルにある嶽高原で栽培されるとうもろこしが「嶽きみ（だけきみ）」です。

16名の部会員が、鮮度の高い嶽きみを消費地に届けるために、気温の低い早朝から収穫しています。

収穫期はその年の気候により多少前後しますが、生鮮品は、8月から9月までの季節限定商品となっています。

また、平成19年4月に地域スランド商品として、「嶽きみ」が地域団体商標に登録されています。



◆岩木山南麓の美味しさを届ける

昼夜の寒暖差が実の甘さに影響し、取れたての「嶽きみ」は、メロン並の糖度を誇ります。

その甘さと食感から人気が高く、宅配等で全国に発送されており、首都圏にある有名レストランのシェフなどから「甘くて美味しい嶽きみを当店のメニューに使いたいが、どこで買えるのか？」との問合せがあるほどです。



部会長の加賀谷さん

◆嶽きみのおいしさの秘密

加賀谷部会長は「美味しい嶽きみを生産するためには、決して楽ではない生産環境の中、生産者が手間暇を惜しんでいないことだ」と自信を持って力説します。西の海岸から高原に吹送る風が嶽きみを作るとか、南向きの斜面が太陽の光を沢山受け止めるから美味しくなるなど、先人達からの沢山の言い伝えもありますが、長い年月をかけての土づくりを基本に、実直な生産者によって守られてきたのが「嶽きみ」のおいしさの秘密と言えます。

アスパラガス



県内の夏場のアスパラガスは
ほぼ青森県産！

青森県のアスパラガスの出荷量は全国15位で、一大産地の鱒ヶ沢町を筆頭に、中南地域と続き、県内各地で栽培されています。

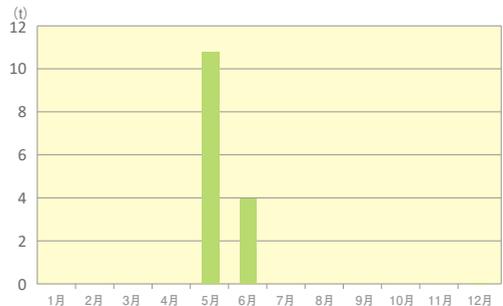
県内市場への出荷が約6割を占め、特に5月から8月には、ほぼ青森県産の入荷となっています。

4月下旬から7月上旬頃に収穫する普通栽培を主体に、さらに収穫時期を拡大するため、早めに若茎を伸ばして光合成をさせながら収穫を続ける立茎栽培や、夏に養成した親株をハウスに伏せ込んで冬場に出荷する促成栽培などが行われています。

全国の生産状況 (R1)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	3,040	1,250
2	佐賀	2,650	129
3	熊本	1,970	99
4	長野	1,800	828
4	福岡	1,800	86
15	青森	452	139
	全国	23,600	5,010

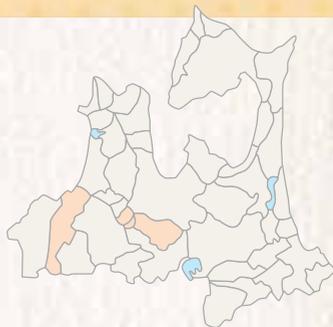
県産月別入荷量 (R1 東京都中央卸売市場)



主な産地

中南地域：黒石市、藤崎町、田舎館村

西北地域：鱈ヶ沢町



産地レポート

鱈ヶ沢町

◆産地の情報

岩木山の麓に位置する鱈ヶ沢町長平地区では、加工だいこんに代わる品目として、価格が比較的安定し、春から収入が得られるアスパラガスが注目され、昭和50年代半ばから栽培が始まりました。

昭和58年には、部会が設立され、長平地区以外でもアスパラガスを導入する生産者や新規就農者が増加したことで、現在では、生産者数52名、作付面積41haの県内最大級のアスパラガス産地に成長しました。



長平地区のアスパラガスほ場

◆栽培の特徴

主な品種は、「ウエルカム」、「スーパーウエルカム」で、近年は、全雄系の「ゼンユウガリバー」の導入が増えています。

5月上旬から7月上旬まで収穫する普通栽培を主体に、5月上旬から下旬頃まで収穫した後、6月上旬から1か月程度茎葉を伸ばして養分を蓄え、7月から9月下旬まで再び収穫する立茎栽培に取り組む生産者も徐々に増えています。



立茎栽培

◆J A つがるにしきたつがる白神野菜センターにおける共同選別・共同出荷

昭和63年からアスパラガスの共同選別・共同出荷が始まり、平成11年には全自動選別機が導入され、効率的な出荷体制が整いました。

また、新規作付者の増加や集出荷の一元化に伴う取扱量の増加、立茎栽培の増加による販売期間の延長に対応するため、平成27年には、高性能な全自動選別機を導入し、年間約100tのアスパラガスが仙台や県内の市場に出荷されています。



自動選別機での選別



結束・箱詰め作業



箱詰めされたアスパラガス

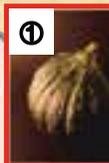
青森の伝統的・特徴的野菜

① 入魂かぼちゃ

たった1個の実に、株全体のうまみを凝縮させた大変に美味しい高級かぼちゃで、下北地域と今別地域の特産野菜として注目されています。

濃い緑色の果皮と山吹色の鮮やかな果肉、糖度13~15度の甘さとホクホクした食感の絶妙なバランスが特徴です。

一球入魂かぼちゃブランド戦略協議会が商標登録して、販売しています。



② 筒井紅かぶ・箆石かぶ

青森市内で100年以上前から漬物用の赤かぶとして、筒井地区で「筒井紅かぶ」、久栗坂地区で「箆石かぶ」が栽培されています。

どちらも収量が低く、漬物需要の減少などから作付けが減少しましたが、平成26年、伝統野菜を伝承する「あおり伝統野菜研究会」が結成され栽培技術研修会など作付拡大活動を展開しています。



筒井紅かぶ

③ 清水森ナンバ

旧津軽藩主が京都から持ち帰ったのが栽培の始まりと伝えられている在来種のトウガラシで、弘前市清水森地区で栽培されていました。

平成16年に、地元関係者や学識経験者などが「在来津軽『清水森ナンバ』ブランド確立研究会」を設立し、種子の確保、栽培体系の確立に取り組み、爽やかな辛さとほのかな甘みが特徴の特産品として販売されています。



清水森ナンバ

④ 大鰐温泉もやし

大鰐温泉の特産品で、350年以上前から温泉を熱源とした半地下の「土室(つちむろ)」の中で豆もやしとそばもやしが生産されます。

栽培から出荷洗浄まで使用する水も温泉水を使っていることから、独特の芳香とシャキシャキした食感が特徴です。おひたしや炒め物、ラーメン、鍋物などに使われています。



大鰐

⑤食用ぎく

三八地域で古くから栽培されている主力品種の「阿房宮」は、鮮やかな黄色と気品のある香り、しゃきしゃきした食感が特徴です。

10月下旬から11月上旬にかけて、摘み取られ、酢の物や和え物などの郷土料理の彩りとして欠かせない存在となっています。蒸して乾燥させた「干し菊」は特産品となっています。



かぼちゃ

⑥糠塚きゅうり

藩政時代に八戸市糠塚地区に植えたのが始まりとされています。病気に弱く生産量が少ないため減少しました。よく冷やしたものを割って種を取り、味噌をつけて食べるのが最もおいしいといわれています。

歯切れの良い食感とみずみずしさが魅力となっています。



石かぶ

⑦南部太ねぎ

一般品種と比べて甘く、鍋や天ぷらなどに合うことから南部町で多くの農家が栽培していたものの、新品種開発や機械化が進むと一気に衰退し、栽培者が1人だけになりました。

名久井農業高校では、種を譲り受け、栽培してきましたが、その思いが地元の農家に引き継がれ現在では約10人が栽培しています。



食用ぎく



糠塚きゅうり



温泉もやし



南部太ねぎ

《出荷量の全国順位とシェア》

出荷量の全国ベスト10に10品目 (R1)

青森県で生産される野菜の中には、全国一の出荷量を誇るにんにく、ごぼうをはじめとして、ながいも、だいこん、かぶなど出荷量が全国の10位以内に入る品目が10品目あります。



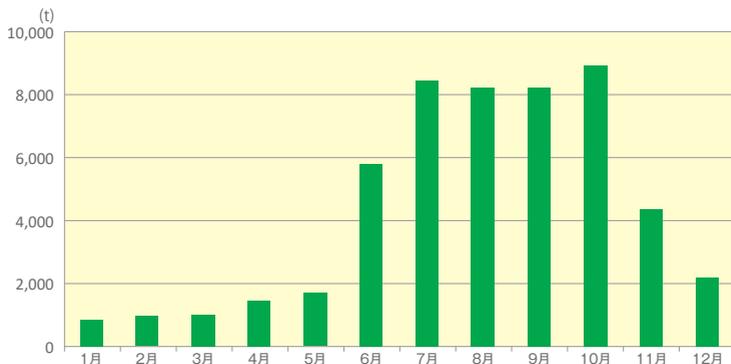
資料：野菜生産出荷統計（令和2年12月）

夏秋期に高い評価

ながいもやにんにく、ごぼうなど貯蔵できる一部の品目を除くと、青森県産野菜の出荷時期は夏秋期が中心です。

一般に、気温が高くなると、病虫害の発生が多く良品質の野菜を生産することが困難になります。青森県は、夏場が比較的冷涼なことから、夏秋期に品質の優れた美味しい野菜を生産しています。

【東京都中央卸売市場における青森県産野菜の入荷量（R1）】

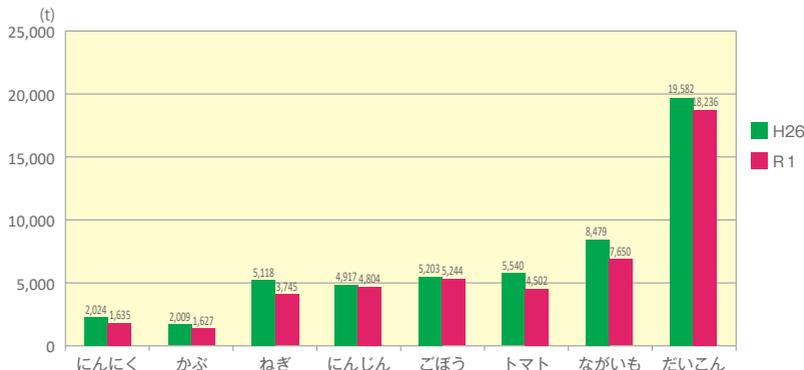


東北では1位のシェア

高速交通網の整備やコールドチェーン（産地から消費地まで一貫した低温状態での流通）の発達等によって遠隔地への出荷が拡大しています。

東京都中央卸売市場への出荷量は、令和元年には52,500tで全国で7位、東北で1位のシェアを占めています。

【東京都中央卸売市場における青森県産野菜入荷量の変化】



野菜産出額東北一を堅持

令和元年の野菜産出額（いも類含む）は、657億円となり、全国で14位、東北では平成6年に福島県を抜いて以来、26年連続して1位になっています。

【野菜産出額の推移】



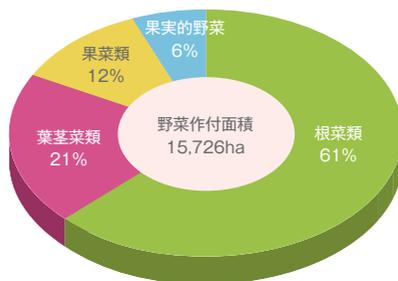
資料：生産農業所得統計
(令和3年3月)

広大な農地を利用して根菜類中心の作付け

令和元年の野菜作付面積は、15,726haと前年に比べやや増加しています。

品目別では、ながいも、ごぼう、にんにく、だいこんなどの根菜・土物類が大きな割合を占めています。

【青森県の野菜の類別作付面積構成比 (R1)】



資料：野菜生産出荷統計（青森県データがある37品目で算出）
(令和2年12月)

付 表

主要野菜の生産・出荷状況 (R1)

(単位：ha、t、%)

区 分	青 森 県			全 国			全国シェア (%)			全国順位		
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	面積	収穫量	出荷量	面積	収穫量	出荷量
だいこん	2,970	121,600	110,800	30,900	1,308,000	1,080,000	10%	9%	10%	2	3	3
やまのいも	2,280	56,300	51,200	7,130	172,700	145,500	32%	33%	35%	1	2	2
うちながいも	2,250	55,800	50,700	5,310	149,700	128,400	42%	37%	39%	1	2	2
ごぼう	2,360	51,400	48,300	7,540	136,800	119,400	31%	38%	40%	1	1	1
にんにく	1,440	13,900	10,400	2,510	20,800	15,000	57%	67%	69%	1	1	1
にんじん	1,190	39,600	36,800	17,000	594,900	533,800	7%	7%	7%	3	4	4
ばれいしょ	658	15,500	11,800	74,400	2,399,000	2,027,000	1%	1%	1%	9	8	7
メロウ	526	10,600	9,260	6,410	156,000	141,900	8%	7%	7%	5	5	5
ねぎ	498	12,300	9,650	22,400	465,300	382,500	2%	3%	3%	16	10	10
キャベツ	461	17,300	15,000	34,600	1,472,000	1,325,000	1%	1%	1%	17	15	14
スイートコーン	437	3,640	1,860	23,000	239,000	195,000	2%	2%	1%	14	12	13
トマト	365	18,100	16,400	11,600	714,600	648,600	3%	3%	3%	7	12	12
うち、ミニトマト	62	3,270	3,020	2,600	151,800	140,500	2%	2%	2%	12	13	13
うち、加工用トマト	1	43	43	382	25,600	25,500	0%	0%	0%	15	13	13
すいか	296	8,290	7,250	9,640	324,200	279,100	3%	3%	3%	12	14	14
えだまめ	265	1,030	435	13,000	66,100	50,500	2%	2%	1%	12	16	16
はくさい	212	5,690	3,510	16,700	874,800	726,500	1%	1%	0%	23	26	21
かぼちゃ	216	2,440	1,460	15,300	185,600	149,700	1%	1%	1%	13	13	13
かぶ	189	7,140	6,430	4,210	112,600	93,300	4%	6%	7%	4	3	3
ほうれんそう	200	19,900	217,800	184,900	1%	-	-	25	-	-
ブロッコリー	174	1,220	1,080	16,000	169,500	153,700	1%	1%	1%	18	23	23
きゅうり	145	5,890	4,860	10,300	548,100	474,700	1%	1%	1%	26	25	25
アスパラガス	139	609	452	5,010	26,800	23,600	3%	2%	2%	8	14	15
なす	95	8,650	301,700	239,500	1%	-	-	34	-	-
レタス	88	2,080	1,900	21,200	578,100	545,600	0%	0%	0%	28	20	20
うち、サラダ菜	2	48	48	443	8,340	7,690	0%	1%	1%	26	14	11
さやいんげん	102	729	437	5,190	38,300	25,800	2%	2%	2%	16	13	13
いちご	86	1,200	996	5,110	165,200	152,100	2%	1%	1%	20	24	24
ピーマン	95	3,780	3,310	3,200	145,700	129,500	3%	3%	3%	8	8	8
うち、ししとう	0	2	2	321	6,670	5,460	0%	0%	0%	45	29	29
さやえんどう	63	264	160	2,870	20,000	12,800	2%	1%	1%	17	24	18
グリーンピース	-	731	6,290	5,000	-	-	-	-	-	-
こまつな	35	7,300	114,900	102,100	0%	-	-	39	-	-
しゅんぎく	29	223	140	1,830	26,900	21,800	2%	1%	1%	19	25	25
たまねぎ	15	25,900	1,319,000	1,196,000	0%	-	-	47	-	-
カリフラワー	18	172	121	1,230	21,400	18,300	1%	1%	1%	18	17	18
そらまめ	23	167	151	1,790	14,100	9,970	1%	1%	2%	21	17	12
にら	16	2,000	58,300	52,900	1%	-	-	16	-	-
ちんげんさい	10	2,140	41,100	36,100	0%	-	-	30	-	-
ふき	4	26	8	518	9,300	7,850	1%	0%	0%	25	18	18
さといも	9	11,100	140,400	92,100	0%	-	-	46	-	-
みつば	8	891	14,000	13,200	1%	-	-	17	-	-
みずな	9	2,480	44,400	39,800	0%	-	-	33	-	-
セルリー	X	552	31,400	30,000	-	-	-	-	-	-
れんこん	-	3,910	52,700	44,500	-	-	-	-	-	-
しょうが	-	1,740	46,500	36,400	-	-	-	-	-	-

注：「-」は事実のないものを示す 「…」は生産・出荷の実況が不詳又は調査を欠くものを示す 「X」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

資料：野菜生産出荷統計 (令和2年12月)

野菜生産状況の推移

区 分	青 森 県				全 国			
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	出荷率 (%)	作付面積 (ha)	収穫量 (千t)	出荷量 (千t)	出荷率 (%)
S50	17,500	397,500	268,580	67.6	656,200	17,906	13,346	74.5
S55	19,400	380,500	280,113	73.6	682,700	18,676	14,460	77.4
S60	21,030	451,947	354,041	78.3	681,100	18,896	14,811	78.4
H 2	22,170	495,529	387,064	78.1	647,200	18,107	14,269	78.8
H 7	21,250	490,791	396,001	80.7	588,200	16,907	13,557	80.2
H 8	21,130	482,076	383,604	79.6	579,300	16,666	13,376	80.3
H 9	21,030	489,856	388,721	79.4	569,300	16,675	13,426	80.5
H10	20,990	471,130	373,255	79.2	560,000	15,707	12,687	80.8
H11	20,940	494,424	392,552	79.4	553,200	15,829	12,804	80.9
H12	20,850	499,172	399,409	80.0	539,600	15,667	12,694	81.0
H13	20,130	482,354	386,881	80.2	524,800	15,547	12,628	81.2
H14	18,900	469,900	377,800	80.4	539,300	15,695	12,781	81.4
H15	18,200	440,000	357,600	81.3	528,200	15,169	12,419	81.9
H16	17,900	467,300	381,600	81.7	519,400	14,540	11,922	82.0
H17	17,100	457,600	374,900	81.9	511,900	14,528	11,895	81.9
H18	17,400	477,300	394,400	82.6	505,800	14,332	11,749	82.0
H19	18,126	482,798	404,609	83.8	503,360	14,746	12,230	82.9
H20	17,442	468,928	395,289	84.3	500,703	14,604	12,127	83.0
H21	16,588	443,860	380,681	85.8	498,160	14,048	11,660	83.0
H22	17,403	417,192	356,027	85.3	495,535	13,365	11,129	83.3
H23	16,009	425,459	367,389	86.4	490,271	13,513	11,298	83.6
H24	15,586	462,478	355,947	77.0	488,448	13,799	11,561	83.8
H25	16,606	419,865	359,926	85.7	480,510	13,544	11,446	84.5
H26	15,105	407,659	353,465	86.7	476,990	13,757	11,665	84.8
H27	15,112	413,782	360,985	87.2	473,811	13,648	11,601	85.0
H28	16,121	404,667	355,258	87.8	470,765	13,174	11,199	85.0
H29	15,405	405,086	352,598	87.0	468,706	13,344	11,419	85.6
H30	15,294	391,439	343,216	87.7	463,332	13,030	11,190	85.9
R 1	15,726	401,190	354,170	88.3	457,151	13,388	11,556	86.3
R 1 / H21	95%	90%	93%	—	92%	95%	99%	—
R 1 / H26	104%	98%	100%	—	96%	97%	99%	—
R 1 / H30	103%	102%	103%	—	99%	103%	103%	—

注：野菜生産出荷統計の調査品目の積上げ

資料：野菜生産出荷統計
(令和2年12月)

野菜産出額及び農業産出額の推移

(単位：億円、%)

区 分	野 菜 産 出 額			農 業 産 出 額				
	青森県 (億円)	東 北 (億円)	全 国 (億円)	青森県の順位		青森県 (億円)	野菜の占 める割合 (%)	全 国 (億円)
				東 北	全 国			
S50	295	1,551	14,951	2	19	2,908	10.1	89,751
S55	343	1,429	20,858	3	21	2,345	14.6	102,293
S63	516	2,409	23,981	2	16	2,723	18.9	104,636
H元	530	2,522	24,665	2	16	3,173	16.7	109,583
H 2	620	2,811	27,168	2	16	3,270	19.0	112,786
H 3	622	2,897	28,495	2	17	3,004	20.7	111,865
H 4	580	2,681	25,969	2	16	3,500	16.6	111,385
H 5	637	2,848	27,774	2	16	2,552	25.0	104,069
H 6	705	2,877	27,514	1	14	3,575	19.7	112,691
H 7	646	2,672	26,481	1	15	3,193	20.2	105,846
H 8	647	2,587	25,642	1	14	3,131	20.7	104,468
H 9	630	2,620	25,378	1	15	2,849	22.1	98,316
H10	667	2,708	27,419	1	15	2,801	23.8	98,680
H11	666	2,594	24,991	1	14	2,776	24.0	94,718
H12	630	2,426	23,486	1	14	2,648	23.8	92,574
H13	598	2,375	22,861	1	14	2,575	23.2	89,734
H14	625	2,427	23,864	1	13	2,570	24.3	89,261
H15	626	2,337	23,370	1	14	2,402	26.1	89,011
H16	716	2,490	23,421	1	10	2,953	24.2	89,130
H17	611	2,227	22,337	1	14	2,797	21.8	88,058
H18	675	2,378	22,565	1	12	2,885	23.3	86,321
H19	697	2,450	22,879	1	12	2,858	24.3	84,449
H20	639	2,349	23,188	1	14	2,828	22.6	86,509
H21	585	2,299	22,965	1	14	2,664	22.0	83,136
H22	661	2,401	24,585	1	13	2,757	24.0	82,551
H23	631	2,179	23,405	1	14	2,804	22.5	83,455
H24	588	2,133	23,746	1	13	2,759	21.3	86,106
H25	641	2,275	24,529	1	13	2,835	22.6	85,742
H26	683	2,260	24,499	1	13	2,879	23.7	84,279
H27	773	2,490	26,200	1	13	3,068	25.2	88,631
H28	887	2,686	27,958	1	10	3,221	27.5	93,051
H29	794	2,504	26,703	1	12	3,103	25.6	93,787
H30	851	2,722	25,188	1	9	3,222	26.4	91,283
R 1	657	2,394	23,522	1	14	3,138	20.9	89,387
R 1 / H21	112.3	104.1	102.4	—	—	117.8	—	107.5
R 1 / H26	96.2	105.9	96.0	—	—	109.0	—	106.1
R 1 / H30	77.2	88.0	93.4	—	—	97.4	—	97.9

注：野菜産出額は野菜+いも類の合計値

資料：生産農業所得統計
(令和3年3月)

東京都中央卸売市場における青森県産の入荷量とシェア (R1)

(単位: t・%)

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	52,500	3	1	1	1	1	1	5	7	6	7	7	4	2
だいこん	18,236	15	1	0	0	0	3	53	29	31	36	40	8	0
ながいも	7,650	72	67	67	71	75	77	74	69	71	69	79	79	67
ごぼう	5,244	60	53	58	55	64	49	17	9	55	81	88	79	
にんじん	4,804	6	0	0	1	1	0	2	46	5	0	7	10	0
トマト	4,502	6	0	—	—	0	0	1	15	18	15	10	2	0
ねぎ	3,745	7	0	0	0	0	0	0	2	15	24	22	14	2
にんにく	1,633	46	51	60	51	41	29	41	32	43	53	48	52	55
かぶ	1,627	12	0	0	0	0	5	21	40	45	43	18	8	3
ミニトマト	1,231	5	0	—	0	—	0	1	13	19	14	9	2	0
きゅうり	833	1	—	—	—	—	0	1	3	4	3	1	0	0
メロン	816	4	—	—	—	0	0	0	4	28	12	1	0	0
すいか	621	2	—	—	—	—	—	—	1	5	3	1	0	0
キャベツ	497	0	0	0	0	—	—	0	1	1	1	1	0	0
ブロッコリー	479	2	—	—	—	—	0	10	5	0	3	3	0	0
ピーマン	468	2	—	—	—	—	—	0	2	8	7	3	1	0
ばれいしょ	398	0	—	—	—	—	—	—	1	5	1	0	0	0
かぼちゃ	256	1	—	—	—	—	—	—	0	7	2	0	0	0
いんげん	135	5	—	—	—	—	0	0	7	17	21	9	1	0
スイートコーン	74	1	—	—	—	—	—	—	0	2	1	—	—	—
えだまめ	68	1	—	—	—	—	—	—	1	2	2	1	—	—
はくさい	59	0	—	0	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0
さやえんどう	43	3	—	—	—	0	1	21	33	0	2	6	1	—
ほうれんそう	26	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
いちご	21	0	—	—	—	—	0	2	9	5	4	7	0	—
アスパラガス	15	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	—	—
なす	1	0	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	—	—
レタス	0	0	—	—	0	—	—	0	0	0	0	—	—	—

注: 野菜合計は当該市場の野菜入量の合計であり、果実の野菜(メロン、すいか等)を含まない

「—」は入荷の事実のないものを示す

大阪市中央卸売市場(本場)における青森県産の入荷量とシェア (R1)

(単位: t・%)

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	8697	2	1	1	1	1	1	3	5	3	3	4	2	1
ながいも	2038	35	27	43	43	50	53	36	30	25	30	39	31	18
ごぼう	1653	26	23	23	18	21	17	9	17	2	21	57	54	30
だいこん	1189	4	—	—	—	—	2	39	2	4	3	10	3	0
にんじん	993	4	—	—	—	—	—	0	49	2	0	3	1	0
ピーマン	756	13	—	—	—	—	—	0	20	34	37	36	6	—
ばれいしょ	588	2	—	—	—	—	—	—	6	14	1	0	0	—
にんにく	563	83	80	88	88	86	67	79	80	81	85	87	83	85
メロン	359	5	—	—	—	—	—	—	9	19	2	—	—	—
かぶ	297	26	—	—	—	—	27	99	76	99	100	82	—	—
トマト	208	1	—	—	—	—	—	—	2	2	2	2	0	—
やまのいも	145	39	—	6	9	26	28	25	26	26	35	44	41	46
ねぎ	90	1	—	—	—	—	—	—	—	—	2	4	5	1
すいか	74	1	—	—	—	—	—	—	1	2	—	—	—	—
とうもろこし	43	2	—	—	—	—	—	—	—	4	10	—	—	—
きゅうり	24	0	—	—	—	—	—	—	0	1	1	0	—	—
そらまめ	23	7	—	—	—	—	—	55	97	100	—	—	—	—
かぼちゃ	22	0	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—
ビース(グリーンピース)	15	7	—	—	—	—	3	41	52	—	—	1	—	—
えんどう	11	2	0	—	—	0	1	17	23	—	16	19	1	—
アスパラガス	5	0	—	—	—	0	4	0	—	—	—	—	—	—
えだまめ	5	0	—	—	—	—	—	—	—	1	1	2	—	—
うど	3	7	2	21	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
いんげん	2	0	—	—	—	—	—	—	0	3	4	—	—	—

注: 野菜合計は当該市場の野菜入量の合計であり、果実の野菜(メロン、すいか等)を含まない

「—」は入荷の事実のないものを示す

名古屋中央卸売市場における青森県産の入荷量とシェア (R1)

(単位: t・%)

品目	入荷量 (t)	月別シェア (%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜全部	14,614	4	2	2	2	2	2	5	8	5	5	5	4	2
だいこん	4,788	22	—	—	—	—	1	60	48	49	48	51	12	—
なごぼ	4,661	70	67	68	67	71	74	74	70	74	70	78	63	62
ごぼ	2,643	56	60	66	76	76	34	13	5	1	41	82	83	74
にんじん	1,496	6	—	0	—	—	—	4	62	4	—	3	8	0
メロン計	392	8	—	—	—	—	—	—	17	33	7	—	—	—
にんじん	282	40	40	48	42	45	32	38	25	37	47	39	40	43
メークイン	224	5	—	—	—	—	—	—	38	35	5	—	—	—
ピーマン	188	3	—	—	—	—	—	—	3	13	15	8	1	—
すいか計	181	2	—	—	—	—	—	—	0	8	—	—	—	—
トマト	58	0	—	—	—	—	—	—	1	2	1	1	0	—
かぼちゃ	42	3	—	—	—	—	0	12	31	31	30	9	0	—
かぼちゃ	39	0	—	—	—	—	—	—	—	2	0	0	1	1
ペトマト	32	0	—	—	—	—	—	—	0	2	2	1	0	—
やまのいも	30	71	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	92	69
ばれいしょ	28	0	—	—	—	—	—	—	1	1	0	—	0	—
そら豆	20	8	—	—	—	—	—	—	72	68	—	—	—	—
白ねぎ	16	0	—	—	—	—	—	—	0	1	0	0	1	0
ねぎ	12	0	—	0	0	—	—	—	—	0	—	0	2	1
さやえんどう	9	14	—	—	—	—	16	87	85	5	4	13	—	—
うど	8	42	29	64	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—
きぬさやえんどう	5	2	—	—	—	—	2	37	18	—	19	5	0	—
タラの芽	2	44	63	55	41	—	—	—	—	—	—	—	—	—
きゅうり	2	0	—	—	—	—	—	—	0	0	0	—	—	—
にんじくの芽	1	0	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—
キャベツ	1	0	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
グリーンピース	0	0	—	—	—	—	0	—	—	—	0	1	—	—
みず菜	0	0	—	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—
ほうれんそう	0	0	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
いんげん	0	0	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—
ゆりね	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	—	—

注: 野菜合計は当該市場の野菜入量の合計であり、果実的野菜(メロン、すいか等)を含まない
「—」は入荷の事実のないものを示す

県内卸売市場における青森県産の入荷量とシェア (R1)

(単位: t・%)

品目	入荷量 (t)	月別シェア (%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	115,705	57	28	26	32	36	36	59	74	71	74	76	70	47
だいこん	30,996	81	1	3	1	0	0	95	91	93	94	89	75	3
なごぼ	25,755	96	95	97	98	97	98	85	57	87	99	98	96	95
なごぼ	17,980	93	97	98	85	91	95	91	98	94	99	99	89	94
にんじん	10,165	68	18	20	36	33	9	27	99	89	79	89	89	37
キャベツ	7,540	42	3	1	1	0	1	55	75	57	67	81	57	7
メロン	4,324	82	—	—	—	—	0	11	93	98	96	—	—	—
にんじん	3,722	93	97	97	93	91	89	87	87	91	95	95	93	95
すいか	3,358	76	—	—	—	0	—	5	84	99	99	—	—	—
トマト	2,499	43	0	—	—	0	8	32	89	95	92	90	55	8
ねぎ	2,353	50	18	11	5	6	28	25	31	74	88	91	83	42
はくさい	1,831	32	2	1	2	0	16	58	59	32	59	73	60	5
きゅうり	1,586	29	—	0	—	0	9	30	68	80	66	43	14	1
ばれいしょ	1,106	17	1	1	1	1	—	0	32	61	43	12	4	3
ピーマン	895	45	—	—	—	1	1	7	57	86	88	75	32	4
ほうれんそう	794	43	37	33	44	37	39	49	49	51	56	59	48	30
レタス	752	19	2	1	0	5	17	44	53	48	34	14	12	3
いちご	479	34	14	15	21	36	50	86	80	68	70	73	28	25
なす	217	16	—	—	—	—	1	2	15	49	53	35	3	—
たまねぎ	208	1	—	—	—	0	0	0	2	4	5	1	1	0
さといも	12	15	—	—	—	—	—	—	—	—	20	56	45	6
かなしょ	8	0	—	—	—	0	—	—	—	—	1	0	1	0
その他	7,286	29	7	7	8	11	21	36	43	60	47	38	32	14

注: 県内卸売市場(青森市、弘前市、八戸市、五所川原市、十和田市、南部町、むつ市)7市場における割合であり、果実的野菜(メロン、すいか等)は合計に含まない
「—」は入荷の事実のないものを示す

安全・安心なおいしい野菜づくりは「日本一健康な土づくり運動」

青森県では、県内の全ての生産者が「健康な土づくり」に取り組むことを目指す「日本一健康な土づくり運動」を展開しています。

① 土壌診断の実施

- 土の健康診断である「土壌診断」を実施し、適正施肥を推進
- J Aグループを中心とした効率的な土壌診断体制を整備

青森県の土壌診断体制図



J A全農あおもり
土壌分析センター



土づくり指導者の養成



生産者への土づくり啓発

健康な土」が決め手! 展開中!



②土づくりの実践

- 土づくりの基本である堆肥など有機質資源を活用した土づくり
- 高度な土づくりを実践する「あおり土づくりの匠」の認定
- 化学肥料の低減など「環境にやさしい農業」の取組拡大



稲わらのすき込みやたい肥散布など有機質資源の有効利用



「あおり土づくりの匠」の認定



土づくりを基本とした「環境にやさしい農業」の技術を学ぶ研修会

③栽培管理、収穫

- ほ場での栽培管理～収穫作業<例：ながいも>



植付



栽培管理



収穫

「健康な土」で丈夫に育った、安全・安心で品質の良い農産物が消費者に提供されます。





Aomori vegetables Calender in Season

旬のカレンダー



品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1. な が い も	[Yellow bar]											
2. に ん に く	[Yellow bar]											
3. だ い こ ん						[Yellow bar]						
4. に ん じ ん		[Yellow bar: 雪下にんじん]				[Yellow bar]						
5. アスパラガス		[Yellow bar: 促成栽培]			[Yellow bar]							
6. こ か ぶ						[Yellow bar]						
7. ト マ ト						[Yellow bar]						
8. ミニトマト						[Yellow bar]						
9. ばれいしょ							[Yellow bar]					
10. とうもろこし							[Yellow bar]					
11. えだまめ							[Yellow bar]					
12. さやいんげん						[Yellow bar]						
13. ご ぼ う	[Yellow bar]									[Yellow bar]		
14. ね ぎ							[Yellow bar]					
15. キャベツ						[Yellow bar]						
16. きゅうり						[Yellow bar]						
17. レタス						[Yellow bar]						
18. ピーマン						[Yellow bar]						
19. かぼちゃ							[Yellow bar]					
20. ほうれんそう						[Yellow bar: 寒締め]			[Yellow bar]			
21. 食用ぎく								[Yellow bar]				
22. メロン							[Yellow bar]					
23. すいか							[Yellow bar]					
24. いちご	[Yellow bar]											



この印刷物は、2,000部作成し、印刷経費は1部当たり44円です。